

ごあいさつ



このたびは、弊社の CELSIUS（セルシウス）460 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

CELSIUS 460 は、高速な計算能力と表示能力を備えたワークステーションです。

本書は、CELSIUS 460 のハードウェアの取り扱い方法を説明しています。

あらかじめインストールされているソフトウェアの操作方法については、添付のマニュアル『ソフトウェアガイド』を参照してください。

本書をご覧になり、CELSIUS 460 を正しくお使いいただきますよう、お願いいたします。

2001 年 10 月

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

本ワークステーションには、“外国為替及び外国貿易法”に基づく特定貨物が含まれています。従って、本ワークステーションを輸出する場合には、同法に基づく許可が必要とされる場合があります。

Microsoft、Windows、Windows NT、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

その他の各製品は、各社の商標、登録商標または著作物です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2001

本書の読みかた



本書は、CELSIUS 460 の基本的な取り扱い方法を解説しています。本書で解説していない周辺装置の取り扱い方法については、各周辺装置に添付されている取扱説明書をご覧ください。

■ 本書の構成

章	内容
第 1 章 はじめに	本ワークステーションの設置から各種ケーブルを接続するまでの方法、電源の入れかた / 切りかた、および媒体の取り扱い方法などを説明しています。 必ずお読みください。
第 2 章 内蔵オプションの取り付け	ハードディスクや拡張カードなどの内蔵オプションを本ワークステーションに取り付ける方法を説明しています。 必要に応じてお読みください。
第 3 章 BIOS 設定	本ワークステーションのハードウェアの環境を設定する BIOS 設定 (BIOS Setup) というプログラムについて説明しています。 必要に応じてお読みください。
第 4 章 困ったときに	本ワークステーションを使用していて思うように動かないとき、エラーメッセージが表示されたときにどうすればいいかを説明しています。 必要に応じてお読みください。
付録	本ワークステーションの各部の名称や本ワークステーションのお手入れのしかた、本体仕様、注意事項などの説明をしています。 ひととおりお読みください。

安全にお使いいただくために



本書には、本ワークステーションを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本ワークステーションをお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の冒頭の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本ワークステーションをお使いください。

また、本書は、本ワークステーションの使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

安全上のご注意

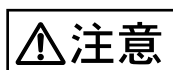


本ワークステーションおよびそのオプション装置を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

感電



で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。

分解



で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。

プラグ



で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が示されています。

■ 万一、異常が発生したとき



プラグ



- 万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が消えるのを確認して、担当営業員または担当保守員に修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本ワークステーションを落としたり、カバーなどを破損した場合は、ワークステーション本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

■ 本体の取り扱いについて



プラグ



- 近くで雷が起きたときは、電源ケーブルやモジュラケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

分解



- 本ワークステーションをお客様自身で分解改造しないでください。感電・火災の原因となります。
- ワークステーション本体のカバーや差し込み口についているカバーは、オプション装置の取り付けなど、必要な場合を除いて取り外さないでください。内部の点検、修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

水 気



- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所で本ワークステーションを使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

禁 止



- ディスプレイに何も表示できないなど、故障している状態では本ワークステーションは使用しないでください。
故障の修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。
そのまま使用すると感電・火災の原因となります。
- 開口部（通風孔など）からワークステーション本体内部に、金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。
- 本ワークステーションの上または近くに「花びん・植木鉢・コップ」などの水が入った容器、金属物を置かないでください。
感電・火災の原因となります。
- 台所など湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に本ワークステーションを設置しないでください。
感電・火災の原因となります。
- 本ワークステーションに水をかけたり、濡らしたりしないでください。
感電・火災の原因となります。
- 添付の電源ケーブル以外は使用しないでください。
感電・火災の原因となります。
- カバーを外した状態で電源プラグをコンセントに差したり、電源を入れたりしないでください。
感電・火災の原因となります。
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
また、タコ足配線をしないでください。
感電・火災の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、感電・火災の原因となります。

禁 止



- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。
故障の修理は、担当営業員または担当保守員にご依頼ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

感 電



- 電源ケーブルを抜いたあと、プラグに触らないでください。
感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

指 示



- 電源プラグの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、かわいた布でよく拭いてください。
そのまま使用すると、火災の原因となります。

アース



- アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。
アース接続をしないと感電のおそれがあります。
また、アース線は、ガス管には絶対に接続しないでください。
火災の原因となります。

警告



- 取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んで飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。
万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

プラグ



- 本ワークステーションを移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなどもはずしてください。
作業は足元に十分注意して行ってください。
電源ケーブルが傷つき、感電・火災の原因となったり、本ワークステーションが落下したり倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 本ワークステーションを長期間使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となることがあります。

⚠ 注意



- 電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。
電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となることがあります。
- 装置の開口部（通風孔など）をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 直射日光の当たる場所や炎天下の車内など、高温になる場所に長時間放置しないでください。
高熱によってカバーなどが加熱・変形・溶解する原因となったり、ワークステーション本体内部が高温になり、火災の原因となることがあります。
- 使用中の装置は布などでおおったり、包んだりしないでください。
熱がこもり、火災の原因となることがあります。

⚠ 注意



- 電源ケーブルを束ねて使用しないでください。
発熱して、火災の原因となることがあります。
- 本ワークステーションの上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。
バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。
倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。

指 示



- 電源ケーブルを接続するコンセントは、本ワークステーションのそばに設けてください。
火災の原因となることがあります。
- 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
火災・故障の原因となることがあります。
- ディスプレイなど、重量のある装置を動かす場合は、必ず2人以上で行ってください。
けがの原因となることがあります。

指 示



- CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW をセットおよび取り出すときには、トレイに指などを入れないでください。
けがの原因となります。
- フロッピーディスク、DAT、MO をセットおよび取り出すときには、差し込み口に指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。
- レーザ光の光源部を直接見ないでください。
目を傷める原因となることがあります。

■ オプションの取り扱いについて

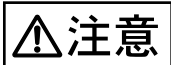


- オプション装置の取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。
- オプション装置を接続する場合は装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。
- オプション装置を接続する場合は、弊社純正品をご使用ください。
感電・火災または故障の原因となることがあります。
- LAN コネクタには指などを入れないでください。
感電の原因となります。

■ 電池の取り扱いについて



- 使用している電池を取り外した場合は、小さなお子様が電池を誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。
万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。



- 電池はショートさせたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしないでください。
電池の破裂、液もれにより、けが・火災や周囲を汚す原因となることがあります。
- 使用済みの電池を廃棄する場合は、他のゴミと一緒に捨てないでください。
火中に投げると破裂のおそれがあります。

■ その他

警告

指 示



- 梱包に使用しているポリ袋はお子様が口に入れたり、かぶって遊んだりしないよう、ご注意ください。
窒息の原因となります。

注意

指 示



- 本ワークステーションを無理な姿勢で長時間使い続けると、腰痛や腱鞘炎の原因となる場合があります。以下に示すような正しい姿勢で使用し、1時間に10分以上休憩をとってください。
 - いすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
 - いすの高さを、足の裏全体がつく高さに調節する。
 - ひじは90度以上に伸ばして操作する。
- ディスプレイを長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」等の目の傷害の原因となる場合があります。1時間に10分以上の休憩をとってください。また、なるべく画面を下向きに見る位置にする、意識的にまばたきをする、場合によっては目薬をさすなどしてください。
- ヘッドフォンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。耳を刺激するような大きな音を長時間続けて聴くと、聴力が低下するなど、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
- ヘッドフォンをしたまま電源スイッチを入れたり切ったりしないでください。
刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
- 本ワークステーションは、他のゴミと一緒に捨てないでください。
この装置はリチウム電池を使用しており、火中に投げると破裂のおそれがあります。

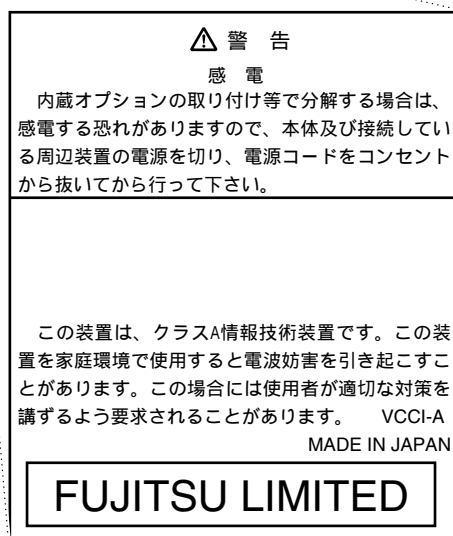
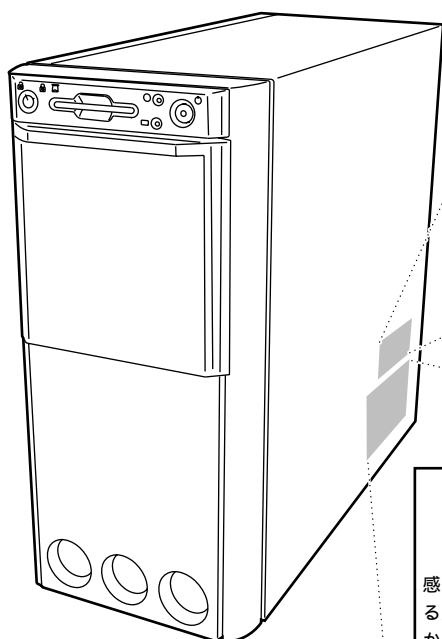
■ 装置の廃棄

本ワークステーションを廃棄する場合、担当営業員または担当保守員に相談してください。本ワークステーションは産業廃棄物として処理する必要があります。

警告ラベル



本製品には、下図のように警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルは、絶対にはがさないでください。また、汚れてメッセージなどが見えにくくなった場合は、担当営業員または担当保守員まで連絡してください。



本書の表記について



■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：[Ctrl] キー、[Enter] キー、[→] キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：[Ctrl] + [F3] キー、[Shift] + [↑] キーなど

■ ボタンの表記

画面に表示されるボタンは、次のように [] で囲んで記述しています。

例：[OK]

■ コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
      ↑  ↑
```

↑ の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、[Space] キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を 1 回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

■ 本文中の表記

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。



ポイント

ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。



ヘルプ

操操作を間違えてしまったときの元の状態への戻しかたや、困ったときの対処方法が書いてあります。

■ 連続する操作の表記について

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「-」でつないで記述しています。

例：[スタート]をクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

[スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」をクリックします。

■ 画面例について

本書に記載されている画面は一例です。お使いのワークステーションに表示される画面やファイル名などが異なる場合があります。ご了承ください。

■ イラストについて

本書に記載されているイラストは一例です。取り付けるオプションによっては、使用するワークステーションと異なる場合があります。ご了承ください。

■ 製品の呼びかたについて

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記しています。

Windows NT

Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0 の略です。

Windows 2000

Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system の略です。

本ワークステーションまたはワークステーション本体

CELSIUS 460 を指します。

目次

第 1 章 はじめに..... 21

1	各部の名称と働き	22
	ワークステーション本体前面	22
	ワークステーション本体背面（基本モデル）.....	24
	ワークステーション本体内部（基本モデル）.....	26
	キーボード（OADG キーボード（109 キー））.....	27
	マウス	27
2	設置	28
	設置する場所について	28
	テレビ／ラジオなどの受信障害防止について	29
3	接続	30
	ディスプレイ／キーボード／マウス／LAN ケーブルの接続	31
	電源ケーブルの接続	33
4	電源を入れる	34
	電源を入れるときの注意事項	34
	電源の入れかた	34
5	電源を切る	37
	電源を切るときの注意事項	37
	電源の切りかた	37
6	リセットする	39
	リセットの方法	39
7	フロッピーディスク／スーパーディスクについて	41
8	CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW について	43
9	ハードディスクについて	47
10	ファイルベイのセキュリティ	48
	ファイルベイの施錠	48
	ファイルベイの解錠	49

第 2 章 内蔵オプションの取り付け. 51

1	内蔵オプションを取り付ける前に	52
	内蔵オプションとは	52
	取り扱い上の注意	53
2	サイドカバーの取り外し／取り付け	54
	サイドカバーの取り外し	54
	サイドカバーの取り付け	55

3	メモリの取り外し／取り付け	56
4	拡張カードの取り付け／取り外し	59
	拡張カードの取り付け	61
	拡張カードの取り外し	62
5	各種ドライブの取り付け	63
	ファイルベイへのドライブの取り付け	65
	ファイルベイからのドライブの取り外し	66
	フロッピーディスクドライブベイへの取り付け	67
	ハードディスクドライブの内蔵ハードディスクベイへの取り付けと 取り外し	69
	ハードディスクドライブのファイルベイへの取り付け	72

第 3 章 BIOS 設定..... 73

1	BIOS 設定とは	74
2	操作方法	75
	BIOS Setup の操作方法	75
	Boot Menu の操作方法	76
3	BIOS Setup のメニューと項目の詳細	77
	Main	77
	Advanced	83
	Security	94
	Power	99
	Exit	102
	パスワードを忘れてしまったときには	104

第 4 章 困ったときに..... 105

1	エラーメッセージ	106
	ビープ音をともなうエラー	106
	エラーメッセージ	107
2	こんなときには	110
3	どうしても解決できないときは	112
	機種名 / MODEL / カスタムメイド型番の表記場所	112
	お問い合わせ前の確認シート	113

付録..... 115

1	システムボード	116
2	リソース一覧	118
3	ドライブの設定	119
4	コネクタ仕様	121
5	お手入れ	128
	ワークステーション本体のお手入れ	128
	キーボードのお手入れ	128
	CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW のお手入れ	128
	マウスのお手入れ	129

	フロッピーディスクドライブおよびスーパーディスクドライブの クリーニング.....	130
6	保守修理サービスのご案内.....	131
	契約サービス.....	131
	スポット保守サービス.....	131
7	保証について.....	132
8	その他の注意事項.....	133

1 はじめに

この章は、各部の名称と働きや電源の入れかた / 切りかたなど、本ワークステーションをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

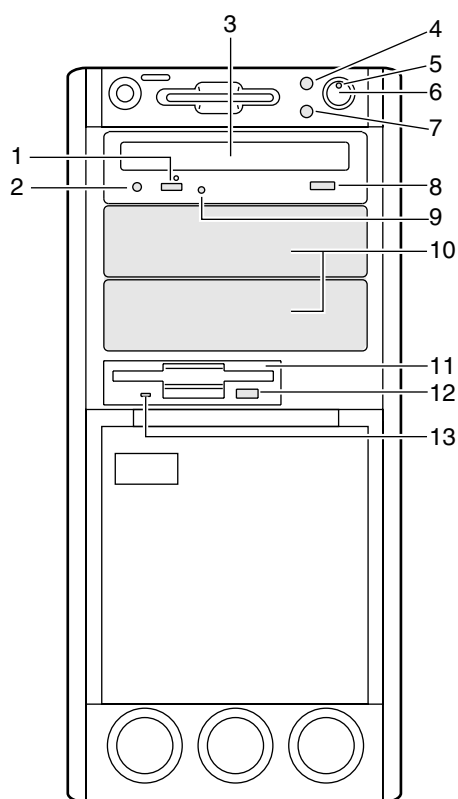
Contents

1 各部の名称と働き	22
2 設置	28
3 接続	30
4 電源を入れる	34
5 電源を切る	37
6 リセットする	39
7 フロッピーディスク / スーパーディスクについて	41
8 CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW について	43
9 ハードディスクについて	47
10 ファイルベイのセキュリティ	48

1 各部の名称と働き

ここでは、ワークステーション本体、キーボードおよびマウスの各部の名称と働きを説明します。

ワークステーション本体前面

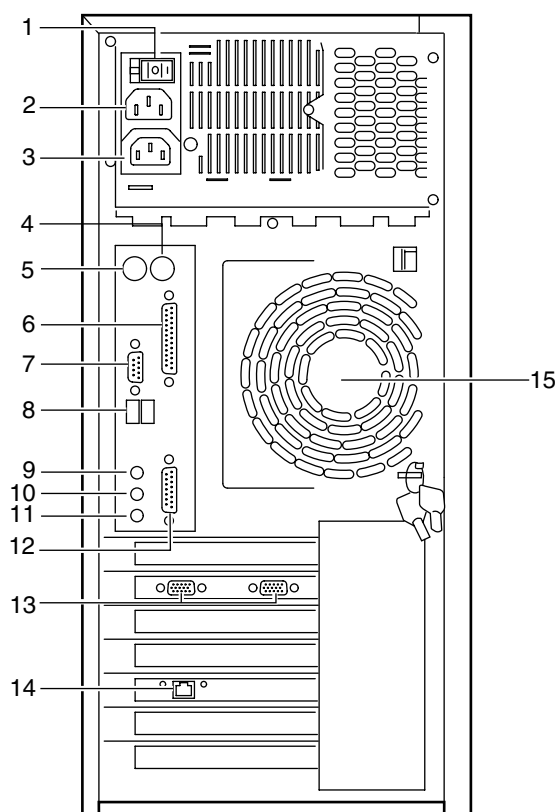


- 1 ヘッドホンボリューム（音楽 CD のみ）*
ヘッドホンを接続したときに、ヘッドホンの音量を調整します。
- 2 ヘッドホン端子（音楽 CD のみ）*
市販のヘッドホンで音楽 CD を聴くときに、ヘッドホンを接続します。
- 3 CD-ROM ドライブ
DVD-ROM、CD-R/RW ドライブ（カスタムメイドオプション選択時）
CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW のデータやプログラムを読み出したり、音楽用 CD を再生したりします。

- 4 ハードディスクアクセス表示ランプ
ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み込んだりしているときに点灯します。
- 5 電源ランプ
メインスイッチが「O」側のときは消灯しています。
メインスイッチが「|」側のときはオレンジ色に点灯します。
ワークステーション本体に電源が入っているときは緑色に点灯します。
スタンバイ時はオレンジ色と緑色に点滅します。
- 6 電源スイッチ
ワークステーション本体の電源を入れるときや、スタンバイにするときに押します。
- 7 メッセージ表示ランプ
システムエラーが発生したときに点滅します。
- 8 EJECT ボタン *
CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW をセットするときや取り出すときに押します。
- 9 BUSY ランプ *
CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW からデータを読み込んでいるときや音楽 CD を再生しているときに点灯します。
- 10 ファイルベイ
各種ドライブを取り付けます。
- 11 フロッピーディスクドライブ
スーパーディスクドライブ (カスタムメイドオプション選択時)
フロッピーディスク / スーパーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスク / スーパーディスクからデータを読み込んだりします。
- 12 フロッピーディスク取り出しボタン
フロッピーディスク / スーパーディスクを取り出すときに押します。フロッピーディスクアクセス表示ランプが点灯しているときは押さないでください。
- 13 フロッピーディスクアクセス表示ランプ
フロッピーディスク / スーパーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスク / スーパーディスクからデータを読み込んだりしているときに点灯します。

* ドライブによって位置が異なります。

ワークステーション本体背面（基本モデル）



- 1 メインスイッチ
ワークステーション本体の主電源スイッチです。
- 2 インレット
ワークステーション本体の電源ケーブルを接続します。
- 3 アウトレット
ディスプレイの電源ケーブルを接続します。
- 4 マウスコネクタ ()
マウスのケーブルを接続します。
- 5 キーボードコネクタ ()
キーボードのケーブルを接続します。
- 6 パラレルコネクタ ()
プリンタのケーブルを接続します。
- 7 シリアルコネクタ ()
モデムなど RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

8 USB コネクタ ()

USB 規格の周辺装置を接続します。
Windows NT ではサポートしていません。

9 LINE OUT 端子 ()

アンプ付きスピーカーを接続します。

10 LINE IN 端子 ()

オーディオ機器の入力端子を接続します。

11 マイク端子 ()

マイクを接続します。

12 ゲームポート ()

本ワークステーションではサポートしていません。

13 ディスプレイコネクタ ()

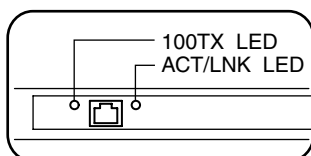
ディスプレイのケーブルを接続します。

14 LAN コネクタ (LAN)

本ワークステーションは、PCI スロット 3 に LAN カードを標準搭載しています。

非シールド・ツイストペア (UTP) ケーブルを接続します。

100Mbps で使用する場合には、カテゴリ 5 のケーブルが必要です。



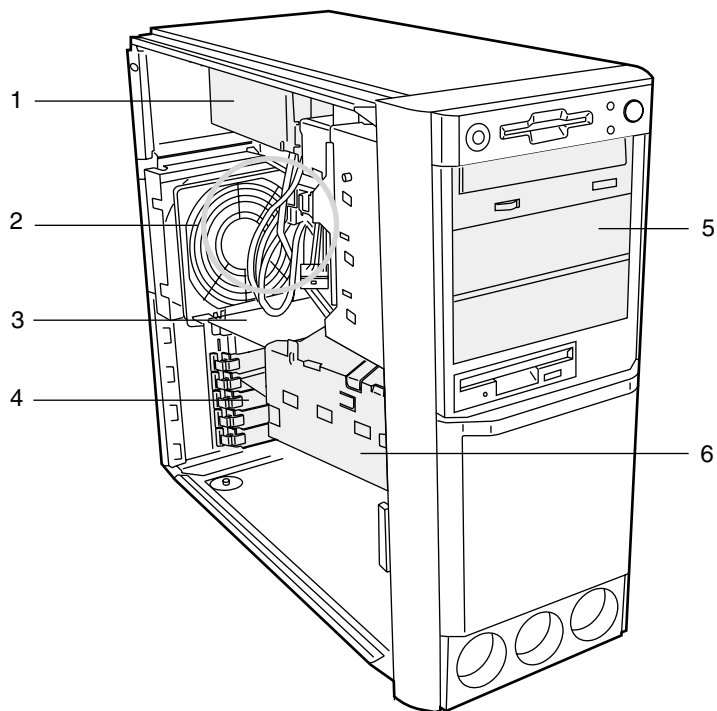
LED の意味は、以下のとおりです。

100TX	緑色 LED 点灯：	100Mbps モードで動作中 (消灯の場合は、10Mbps モードで動作中)
ACT/LNK	緑色 LED 点灯：	LINK を確立
ACT/LNK	緑色 LED 点滅：	データを転送中、または Magic Packet (TM) を受信

15 通風孔 (冷却ファン)

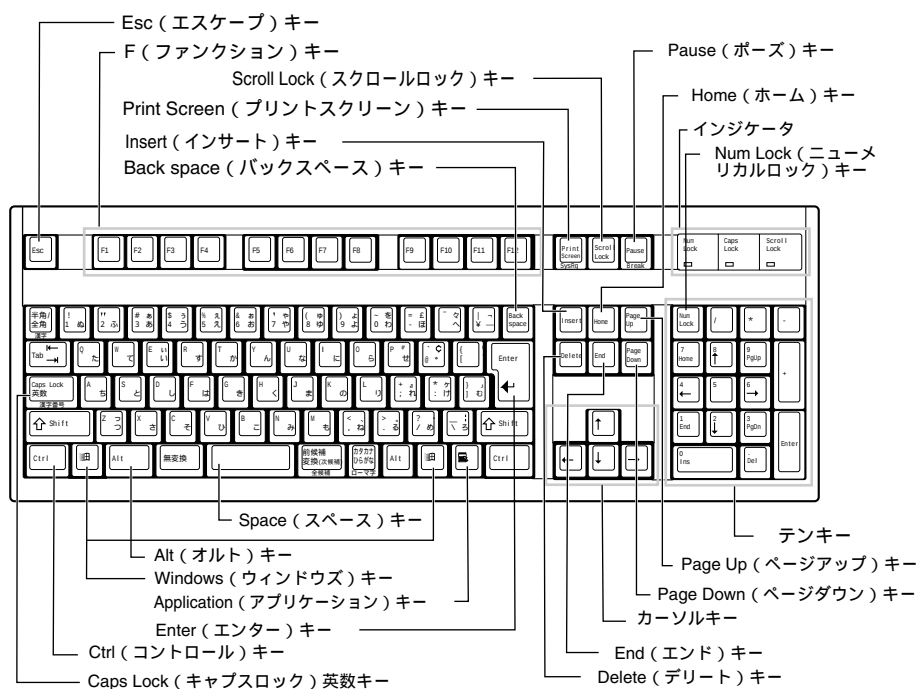
ワークステーション本体内部の熱を外部に逃すための開孔部です。

ワークステーション本体内部（基本モデル）

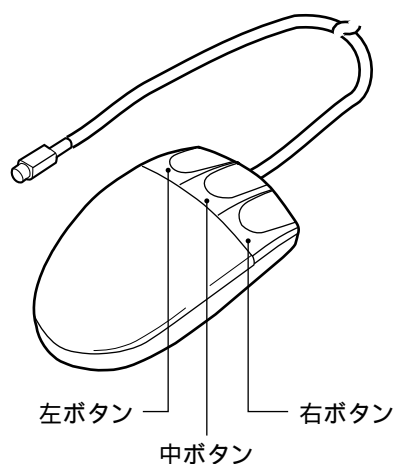


- 1 電源ユニット
- 2 CPU モジュール / メモリ
- 3 ビデオカード
- 4 拡張スロット
拡張カードを取り付けます。
- 5 ファイルベイ
各種ドライブを取り付けます。
上からファイルベイ -3 ~ -1 と並んでいます。
- 6 内蔵ハードディスクベイ
内蔵ハードディスクユニットを取り付けます。
上から内蔵ハードディスクベイ -2、-1 と並んでいます。

キーボード (OADG キーボード (109 キー))



マウス



1

はじめに

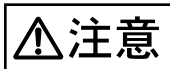
2 設置

本ワークステーションの設置方法、ご使用になるうえでの注意事項について説明します。

設置する場所について

本ワークステーションは、水平で安定した場所に設置し、次の場所は避けてください。

- 湿気やほこり、油煙の多い場所
- 通気性の悪い場所
- 火気のある場所
- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温（35℃以上）になる場所
- 10℃未満の低温になる場所
- 電源ケーブルに足が引っかかる場所
- テレビやスピーカーの近くなど、強い磁界が発生する場所
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所



装置の開口部（通風孔や冷却ファン）をふさがないでください。通風孔や冷却ファンをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



ポイント

ワークステーション本体は、壁などから 10cm 以上離して設置してください。

テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本ワークステーションは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本ワークステーションの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じて、本ワークステーションの故障ではありません。

テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、以下のことにご注意ください。

■ 本ワークステーション側での注意点

- 本ワークステーションのカバーをはずした状態で、使用しないでください。
- 周辺装置と接続するケーブルは、指定のケーブルを使用し、それ以外のケーブルは使用しないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- 本ワークステーションの電源プラグは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

■ テレビやラジオ側での注意点

- テレビやラジオなどを、本ワークステーションから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを本ワークステーションから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルを使用してください。

本ワークステーションや周辺装置などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本ワークステーションや周辺装置など全体の電源を切ることで確認することができます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、上記の項目を再点検してください。

それでも改善されない場合は、担当営業員または担当保守員までご相談ください。

3 接続

ワークステーション本体にディスプレイ、キーボード、電源ケーブルなどを接続します。

⚠ 警告

アース



- アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。
アース接続をしないと感電のおそれがあります。
また、アース線は、ガス管には絶対に接続しないでください。
火災の原因となります。

感電



- ディスプレイ、キーボード、マウス、LAN ケーブル、電源ケーブルの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている周辺装置の電源スイッチを切り、メインスイッチ側を「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。
- ディスプレイ、キーボード、マウスを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。
感電・火災または故障の原因となることがあります。

⚠ 注意

指示

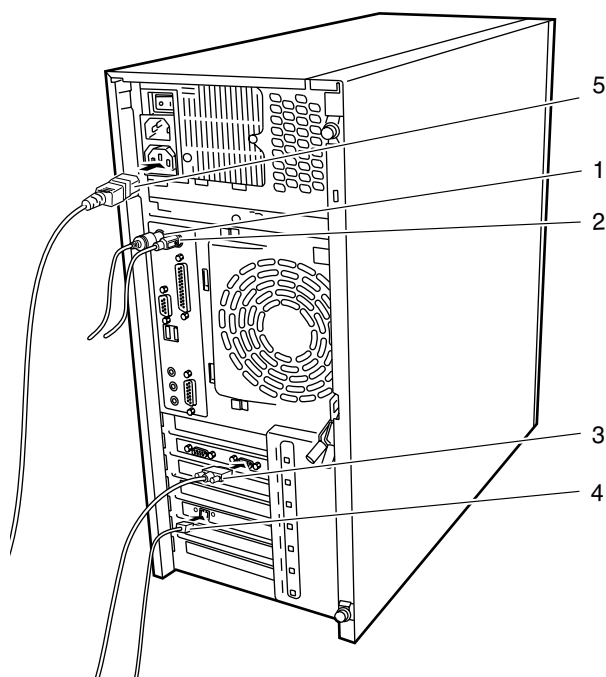


- ケーブルの接続は、間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、ワークステーション本体および周辺装置が故障する原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

ディスプレイ / キーボード / マウス / LAN ケーブルの接続

1

はじめに



(1) キーボードの接続

キーボードケーブルのコネクタをワークステーション本体のキーボードコネクタに接続します。

(2) マウスの接続

マウスケーブルのコネクタをワークステーション本体のマウスコネクタに接続します。

(3) ディスプレイケーブルの接続

ディスプレイケーブルのコネクタをワークステーション本体のディスプレイコネクタに接続して、ケーブルのコネクタのネジを締めます。

(4) LAN ケーブルの接続

ツイストペアケーブルの片方のコネクタをワークステーション本体の LAN コネクタに接続します。もう片方を HUB などのネットワークのコネクタに接続します。



ポイント

LAN ケーブルは、ツイストペアケーブルを使用します。添付されていませんので購入してください。

(5) ディスプレイの電源ケーブルの接続



ポイント

ここでは、ディスプレイの電源をワークステーション本体から取る場合の接続方法について説明します。この場合、ディスプレイに添付の電源ケーブルは使用しません。

ワークステーションに添付の電源ケーブル（ディスプレイ用）の片方のプラグをワークステーション本体のアウトレットに接続します。もう一方のプラグをディスプレイ背面のインレットに接続します。

電源ケーブルの接続

1

はじめに

ディスプレイなどの周辺装置を接続し終えたら、次の点に注意して本体の電源ケーブルを接続してください。

- 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
- 重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりしないでください。
- 電源ケーブルやプラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは、使用しないでください。
- プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、かわいた布でよく拭いてください。
- 電源ケーブルは、家庭用電源（AC100V）に接続してください。



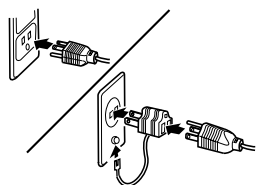
ポイント

電源ケーブルは、タコ足配線をしないでください。
また、キーボードケーブルやマウスケーブルとからまないようにしてください。

- 近くで雷が起きたときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 2 ピンのコンセントに接続する場合は、添付の変換プラグを使用してください。また、その場合、必ずアース線を接続してください。
- プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。
- プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
- 長期間使用しないときは、安全のため必ずプラグをコンセントから抜いてください。

■ ワークステーション本体の電源ケーブルの接続

- 1 電源ケーブル（本体用）のプラグをワークステーション本体背面のインレットに接続します。
- 2 電源ケーブルのもう一方のプラグを、電源コンセントに接続します。コンセントに接続する際にコンセントが2 ピンの場合は、ワークステーション本体に添付の変換プラグを取付けてから、コンセントに接続します。アダプタプラグについているアース線を、アース端子にネジ止めします。



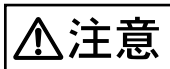
4 電源を入れる

ここでは、電源の入れかたについて説明します。

電源を入れるときの注意事項

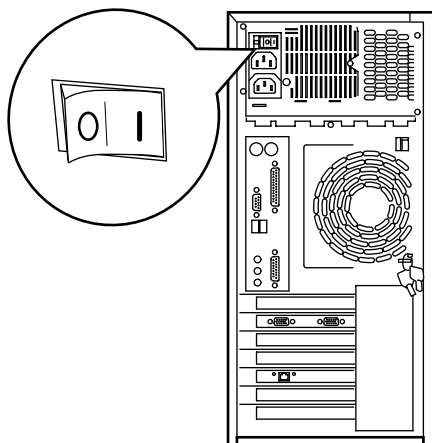
- 画面に何も表示されない場合は、ディスプレイの電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイ側で調整してください。
- 自己診断（POST）の結果、異常があればメッセージが表示されます。
- ディスプレイの電源ケーブルをワークステーション本体に接続している場合、ディスプレイの電源はワークステーション本体と連動して入ります。そのため、ディスプレイの電源スイッチは一度押しておけば、以後操作する必要はありません。
次回から手順3の本体の電源スイッチを押すだけで電源が入ります。ただし、ディスプレイ以外の周辺機器は、あらかじめ電源を入れておく必要があります。
- 電源を切ったあとすぐに電源を入れる場合、または電源を入れたあとすぐに電源を切る場合は、10秒間ほど間隔をあけてから行ってください。

電源の入れかた

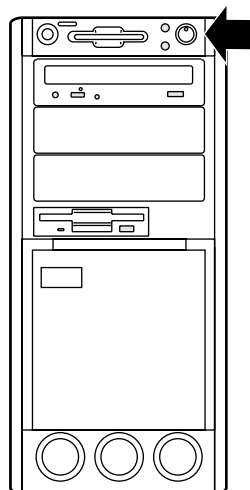


- 電源を入れた状態で持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。
- 冬季など装置が冷えきっているときは、温度を急激に上げないようにして装置が十分暖まってから電源を入れてください。
装置内部に水滴がつき、故障の原因となることがあります。

- 1 本体背面にあるメインスイッチが「|」側になっていることを確認します。



- 2 ディスプレイの電源スイッチを押してディスプレイの電源を入れます。
ディスプレイの電源ランプが点灯します。
この時点では、画面には何も表示されません。
- 3 ワークステーション本体前面の電源スイッチを押します。
電源ランプが緑色に点灯したあとで、システムが起動します。





ポイント

- 本ワークステーションをご購入後、初めてワークステーションの電源を入れたあとは、オペレーティングシステムのセットアップを行います。
本ワークステーションに添付されているマニュアル『CELSIUS 460 ソフトウェアガイド』を参照して必ずセットアップを行ってください。
- 本ワークステーションをご購入後、内蔵オプションを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源を切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。

5 電源を切る

ここでは、電源の切りかたについて説明します。

電源を切るときの注意事項

- 電源を切る前にすべての作業を終了し、データを保存してください。
- 電源を切る前に、フロッピーディスクやハードディスクのアクセス表示ランプが消えていることを確認してください。点灯中に電源を切ると、作業中のデータが保存できなかったり、フロッピーディスクやハードディスク内部のデータが破壊されたりする可能性があります。
- 電源を切ったあとすぐに電源を入れる場合は、10 秒間ほど間隔をあけてから行ってください。
- 電源を完全に切断するには、本体背面のメインスイッチを「O」側にしてください（電源スイッチを使用してもワークステーション本体の電源は完全に切断されません）。

電源の切りかた

■ Windows NT の場合

- 1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「コンピュータをシャットダウンする」をクリックし、「はい」をクリックします。
電源が自動的に切れます。



ポイント

- 「電源を切断しても安全です。」というメッセージが表示されて、電源が自動的に切れない場合は、電源スイッチを押して電源を切ってください。
- 次のように電源を切ることもできます。
 - 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。
「Windows NT のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「シャットダウン」をクリックします。
「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
 - 3 「シャットダウン後、電源を切る」をクリックして「OK」をクリックします。
電源が自動的に切れます。

■ Windows 2000 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。
電源が自動的に切れます。



ポイント

次のように電源を切ることができます。

- 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。
「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「シャットダウン」をクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。
電源が自動的に切れます。

6 リセットする

1

はじめに

ソフトウェアをインストールした場合や、使用中のソフトウェアが何らかの理由で動かなくなった場合などに、リセットを行います。ここでは、リセットの方法について説明します。



ポイント

リセットすると、メモリ内のデータが消失します。リセットする前に、必要なデータは保存してください。

リセットの方法

■ Windows NT の場合

- 1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「コンピュータを再起動する」をクリックし、「はい」をクリックします。
本ワークステーションがリセットされます。



ポイント

次のようにリセットすることもできます。

- 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。
「Windows NT のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「シャットダウン」をクリックします。
「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「シャットダウン後、再起動する」をクリックして「OK」をクリックします。
本ワークステーションがリセットされます。

■ Windows 2000 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。
本ワークステーションがリセットされます。



ポイント

次のようにリセットすることもできます。

- 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。
「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「シャットダウン」をクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。
本ワークステーションがリセットされます。

7 フロッピーディスク／スーパーディスクについて

1

はじめに

本ワークステーションには、フロッピーディスクドライブまたはカスタムメイドオプションでスーパーディスクドライブが内蔵されています。

フロッピーディスク／スーパーディスクは、プログラムや情報を保存するための媒体です。

ここでは、フロッピーディスク／スーパーディスクの取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

■ 取り扱い上の注意

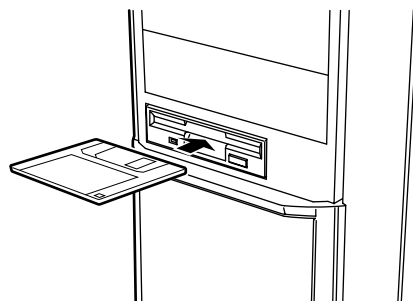
故障の原因となりますので、フロッピーディスク／スーパーディスクを使用するときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください（ドライブにつまる原因になります）。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。

■ フロッピーディスク／スーパーディスクのセット／取り出し

- フロッピーディスク／スーパーディスクのセット

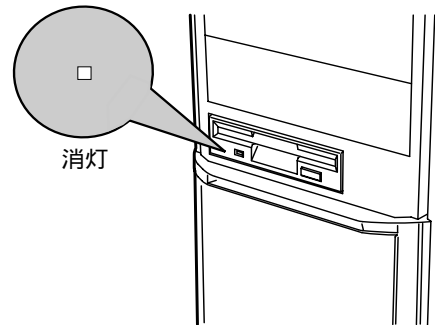
- 1 ラベルを上側に向け、シャッタのある側から、フロッピーディスクドライブ／スーパーディスクドライブに差し込みます。
「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク／スーパーディスクがセットされます。



- フロッピーディスクの取り出し

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認します。

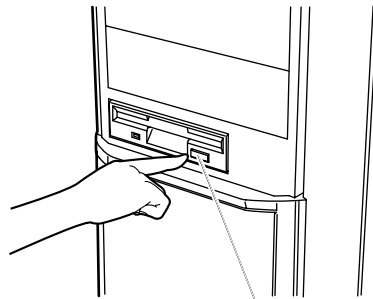
フロッピーディスク
アクセス表示ランプ



ポイント

フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスク/スーパーディスクを取り出さないでください。データが破壊される可能性があります。

- 2 フロッピーディスク取り出しボタンを押します。
フロッピーディスク/スーパーディスクが出てきます。



フロッピーディスク
取り出しボタン

8 CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW について

1

はじめに

本ワークステーションには、CD-ROM ドライブ、またはカスタムメイドオプションで DVD-ROM、CD-R/RW ドライブが内蔵されています。

ここでは、CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW（以下、まとめて媒体とします）の取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

■ 取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、媒体を使用するときは、次の点に注意してください。

- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで字を書かないでください。また、ラベルなどは貼らないでください。
- 鏡面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりした場合は、かわいた柔らかい布で中央から外側にむかって拭いてください（クリーナーなどは使用しないでください）。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

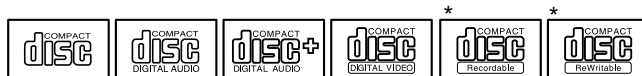
■ ドライブの注意事項

- 「媒体の注意事項」が守られていない媒体、ゆがんだ媒体、割れた媒体、ヒビの入った媒体はお使いにならないでください。故障の原因となります。
- 本ワークステーションは、円形の媒体のみお使いになれます。円形以外の異形媒体は、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形媒体をお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 別売の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクをお使いにならないでください。



ポイント

- CD-ROM は、音楽用 CD（コンパクトディスク）に、音の代わりにさまざまな情報（文字など）を保存したものです。ROM とは、「Read Only Memory」の略で、読み取り専用という意味です。本ワークステーションでは、CD-ROM の情報を読み取ることはできますが、書き込むことはできません（カスタムメイドオプションで CD-R/RW を選択した場合を除く）。
- 本ワークステーションでは、下図のマークがついた CD-ROM をご利用になれます。



* 印のついた CD は、CD-R/RW ドライブをお使いの場合に、別途アプリケーションを用意することで、書き込みが可能となります。

- カスタムメイドオプションで DVD-ROM ドライブを選択された場合は、下図のマークがついた DVD-ROM や DVD-VIDEO がご利用になれます。

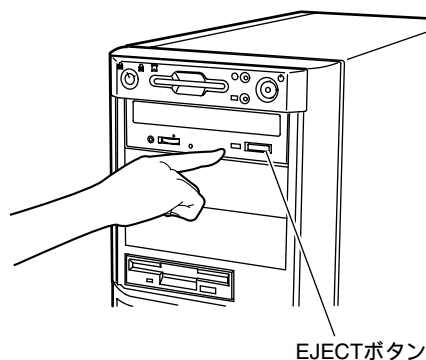


なお、DVD-VIDEO や VIDEO CD を再生するには、別途アプリケーションが必要です。

■ 媒体のセット / 取り出し

- 媒体のセット

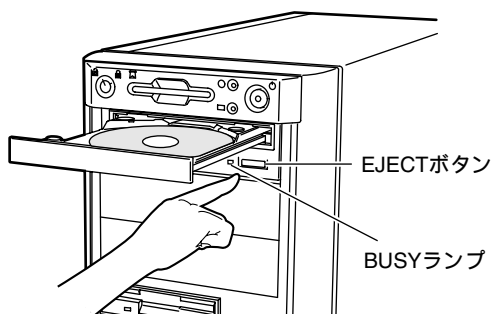
- 1 EJECT ボタンを押します。
媒体をセットするトレイが出てきます。



- 2 媒体のレーベル面を上にして、トレイの中央に置きます。



- 3 EJECT ボタンを押します。
トレイがワークステーション本体に入り、媒体がセットされます。





ポイント

媒体をセットすると、BUSY ランプが点灯します。BUSY ランプが消えるのを確認してから、次の操作に進んでください。

- 媒体の取り出し

媒体の取り出しは、BUSY ランプが消えるのを確認してから、EJECT ボタンを押して行ってください。

9 ハードディスクについて

1

はじめに

本ワークステーションには、ハードディスクが内蔵されています。ここでは、ハードディスクの取り扱いについて説明します。

■ ハードディスクとは

ハードディスクは、ソフトウェアや情報を保存する装置です。ハードディスクは磁気ディスクを1つの箱に収めた構造になっています。フロッピーディスクに比べ、多くの情報を保存でき、情報の読み書きが速いのが特長です。

■ 取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、ハードディスクを使用するときは、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きを行っています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態の本ワークステーションを持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
- 極端に温度変化が激しい場所での使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所での使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでの使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。



ポイント

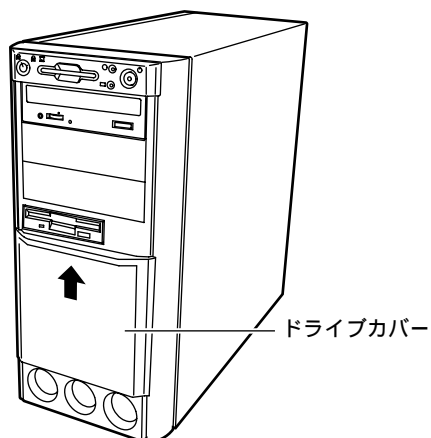
- 誤った取り扱いをすると、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップを取っておいてください。
- 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または区画単位でのバックアップをお勧めします。

10 ファイルベイのセキュリティ

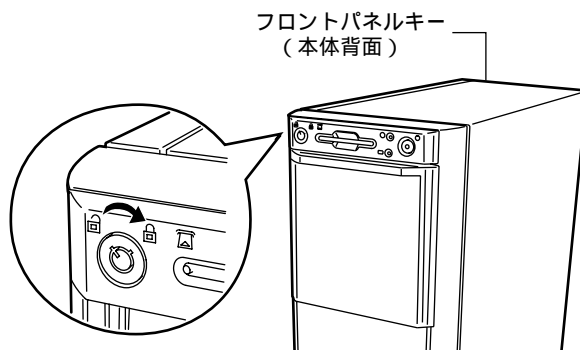
本ワークステーションには、ハードウェアおよびソフトウェア資産を盗難から守るために機械的なロックを持っており、ドライブカバーでファイルベイへのアクセスを防止できます。

ファイルベイの施錠

- 1 ドライブカバーを矢印方向にスライドさせます。



- 2 フロントパネルキーを差して時計方向に回します。



ファイルベイの解錠

解錠は上記と逆の手順で行ってください。



ポイント

フロントパネルキーを紛失された場合はロック部の破壊が必要であり、部品の有償交換となりますので、フロントパネルキーの管理につきましては充分ご注意願います。なお、万が一フロントパネルキーを紛失された場合は、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。

1

はじめに

2 内蔵オプションの取り付け

この章は、本ワークステーションに内蔵オプションを取り付ける方法を説明しています。

Contents

1 内蔵オプションを取り付ける前に	52
2 サイドカバーの取り外し / 取り付け	54
3 メモリの取り外し / 取り付け	56
4 拡張カードの取り付け / 取り外し	59
5 各種ドライブの取り付け	63

1 内蔵オプションを取り付ける前に

ここでは、内蔵オプションの概要および内蔵オプションを取り付ける前の準備として、サイドカバーの取り外し方法とダクトの取り外し方法について説明します。

内蔵オプションとは

本ワークステーションは、さまざまなオプションを接続・内蔵して機能を拡張できます。

オプションの中には、機種によってはお使いになれないものがあります。

ご購入の前に、「CELSIUS シリーズ システム構成図」をご覧ください。そのオプションが使えるかどうかを確認してください。

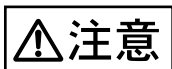


感電



オプション機器を接続する場合には、弊社推奨品以外の機器は接続しないでください。

感電・火災または故障の原因となります。



けが



- 内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジをはずさないでください。
指定された場所以外のネジをはずすと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

故障



- ケーブル類の接続は本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態でお使いになると、本ワークステーションおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

取り扱い上の注意

内蔵オプションを取り付けるときは、次の点に注意してください。

- 作業を行う前に、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源を切った直後は、ワークステーション内部の部品やユニットが熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと十分に待ってから、作業を始めてください。
- 電源ユニット（ワークステーション内部の背面側にある箱の形状をした装置）は分解しないでください。
- 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。
- 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱いの際は、必ず本ワークステーションに付属のリストストラップを着用してください。
リストストラップは片方をシールをはがしてワークステーション本体背面に接着し、もう片方を手首に巻き付けて使用します。
- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。
- 弊社純正品以外のオプションの取り付けや分解を行った場合は、保証の対象外となります。



ポイント

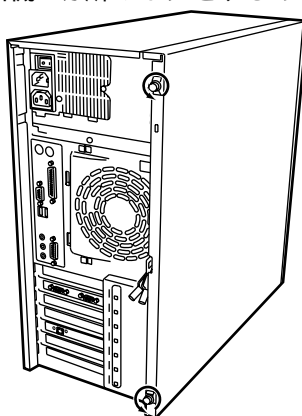
本ワークステーションをご購入後、内蔵オプションを取り付ける場合は、必ずオペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。

2 サイドカバーの取り外し／取り付け

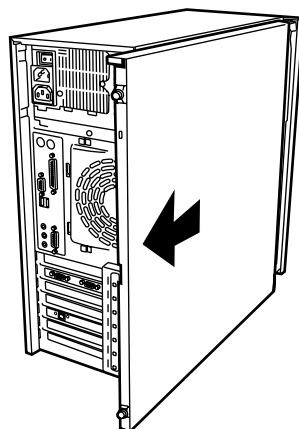
内蔵オプションを取り付けるときは、サイドカバーを取り外して、内部が見える状態にします。

サイドカバーの取り外し

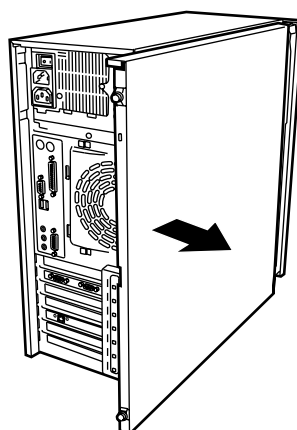
- 1 ワークステーションの電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きます。
- 2 ワークステーションに接続されているすべてのケーブルをコネクタから取り外します。
- 3 ワークステーション本体を作業しやすい場所に移動します。
- 4 ワークステーション本体背面の右側 2カ所のネジをゆるめます。



- 5 サイドカバーを矢印方向に押します。



- 6 サイドカバーを引いてワークステーション本体から取り外します。



2

内蔵オプションの取り付け

サイドカバーの取り付け

取り付けは上記と逆の手順で行ってください。

3 メモリの取り外し／取り付け

メモリの取り付けや取り外し方法を説明します。メモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、ワークステーションの処理能力が上がります。



ポイント

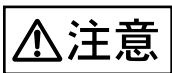
- ご購入後、メモリを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。
- メモリは弊社純正品を使用してください。純正品以外のメモリを取り付けると、起動しません。
- 搭載可能なメモリは、「CELSIUS シリーズ システム構成図」で確認してください。
- メモリを取り付ける場合は、本ワークステーションが倒れないようにワークステーション本体を支えながら作業してください。ワークステーション本体を横向きにすると作業しやすくなります。



感 電



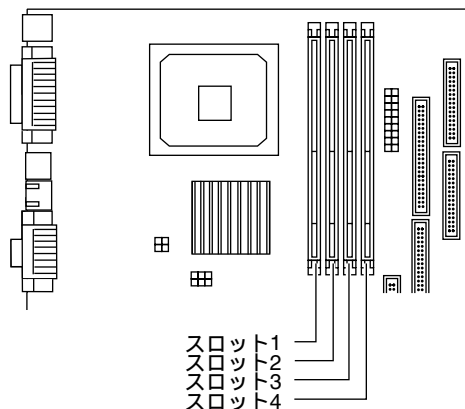
- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。
- メモリを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。
感電・火災または故障の原因となります。
- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジははずさないでください。
指定された場所以外のネジをはずすと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

■ メモリについて

メモリのスロットには、128MB/256MB/512MB の RDRAM メモリモジュールを同一容量 2 枚一組で取り付けられます。メモリは最大 2GB まで取り付けられます。
以下の表でメモリの組合せを確認し、正しく取り付けてください。



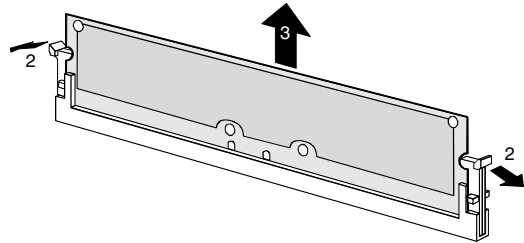
- メモリの取り付け組合せ
メモリを取り付けるときは、同一容量 2 枚一組とし、スロット 1 とスロット 3、スロット 2 とスロット 4 の組合せで取り付けます。

	スロット 1	スロット 2	スロット 3	スロット 4
組合せ 1	メモリ	C-RIMM	メモリ	C-RIMM
組合せ 2	メモリ	メモリ	メモリ	メモリ

：スロット 2 とスロット 4 にメモリを増設しない場合は、必ず C-RIMM（中継モジュール）を取り付けてください。スロット 2 とスロット 4 に何も取り付けられていないと本ワークステーションが正常に動作しません。

■ メモリの取り外し

- 1 サイドカバーを取り外します。
- 2 取り付けるスロットの左右のレバーを外側に開きます。



ポイント

レバーを勢いよく開くと、メモリが飛び出し、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。

- 3 メモリまたは C-RIMM をスロットから取り外します。

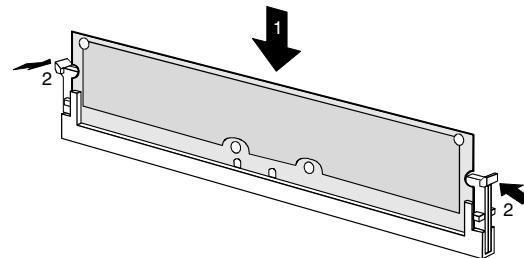


ポイント

取り外したメモリまたは C-RIMM は大切に保管しておいてください。

■ メモリの取り付け

- 1 メモリまたは C-RIMM をスロットに垂直に差し込みます。



- 2 左右のレバーでモジュールを固定します。
- 3 サイドカバーを取り付けます。

4 拡張カードの取り付け／取り外し

拡張カードを取り付ける方法を説明します。拡張カードは、本ワークステーションの機能を拡張します。



ポイント

- 本ワークステーションは、PCI スロット 3 に LAN カードを標準搭載しています。
- ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。
- 拡張カードは弊社純正品を使用してください。他社製の拡張カードのなかには、本ワークステーションで動作しないものがあります。
- 搭載可能な拡張カードは、「CELSIUS シリーズ システム構成図」で確認してください。
- 拡張カードを取り付ける場合は、本ワークステーションが倒れないようにワークステーション本体を支えながら作業してください。ワークステーションを横向きにすると作業しやすくなります。



警告

感 電



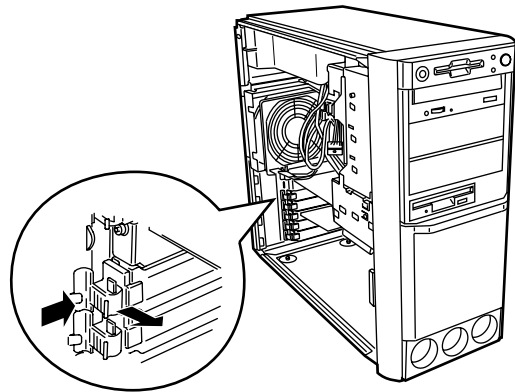
- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。
- 拡張カードを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。
感電・火災または故障の原因となることがあります。
- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。



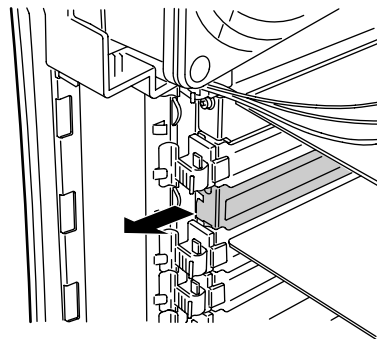
- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジははずさないでください。
指定された場所以外のネジをはずすと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

拡張カードの取り付け

- 1 サイドカバーを取り外します。
- 2 留め具を矢印方向に押し、取り外します。



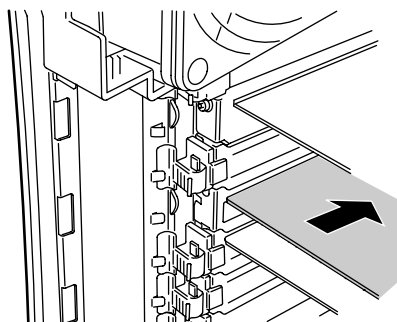
- 3 スロットからスロットカバーを取り外します。



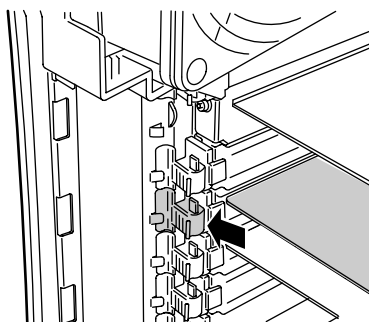
ポイント

取り外したスロットカバーは大切に保管してください。

- 4 拡張カードをスロットに差し込みます。
拡張カードのカバーの先端がガイドにはまり込むようにします。



- 5 拡張カードを固定する留め具を取り付けます。



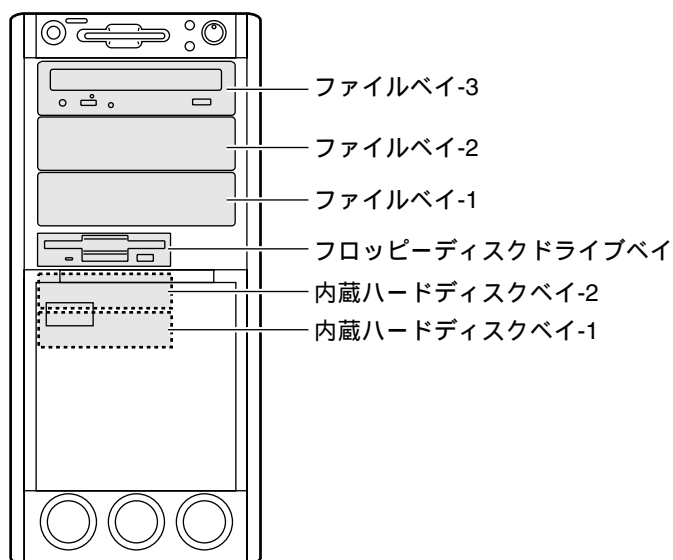
- 6 必要に応じて、ケーブルを拡張カードに接続します。
7 サイドカバーを取り付けます。
8 本ワークステーションの電源を入れます。
必要に応じて、拡張カードのデバイスドライバをインストールします。デバイスドライバをインストールして設定すると、拡張カードを使用できるようになります。

拡張カードの取り外し

取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。

5 各種ドライブの取り付け

本ワークステーションには、ファイルベイを3個、内蔵ハードディスクベイを2個、フロッピーディスクドライブベイを1個、搭載しており、各種ドライブを取り付けることができます。



ポイント

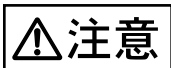
- 本ワークステーションをご購入後、各種ドライブを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。
- 搭載可能な各種ドライブは、「CELSIUS シリーズシステム構成図」で確認してください。



感 電



- 各種ドライブの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。
- 各種ドライブを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。
感電・火災または故障の原因となることがあります。
- 各種ドライブの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。



禁 止



- 各種ドライブの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジははずさないでください。
指定された場所以外のネジをはずすと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

■ IDE 規格の内蔵オプション（ハードディスクドライブを除く）について

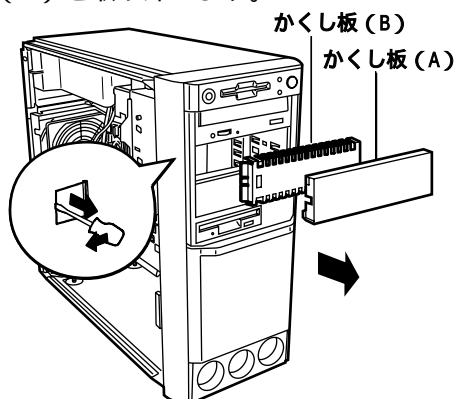
IDE 規格の内蔵オプションはセカンダリ IDE 側に接続されているケーブルに接続します。

ドライブの設定は次のようにしてください。

	マスタ	スレーブ
CD-ROM/DVD-ROM/ CD-R/RW を 1 台搭載の場合	CD-ROM/DVD-ROM/ CD-R/RW	-
CD-ROM/DVD-ROM/ CD-R/RW を 2 台搭載の場合	CD-ROM/DVD-ROM/ CD-R/RW	CD-ROM/DVD-ROM/ CD-R/RW
CD-ROM/DVD-ROM/ CD-R/RW とスーパーディスク ドライブを搭載の場合	スーパーディスクドライブ	CD-ROM/DVD-ROM/ CD-R/RW

ファイルベイへのドライブの取り付け

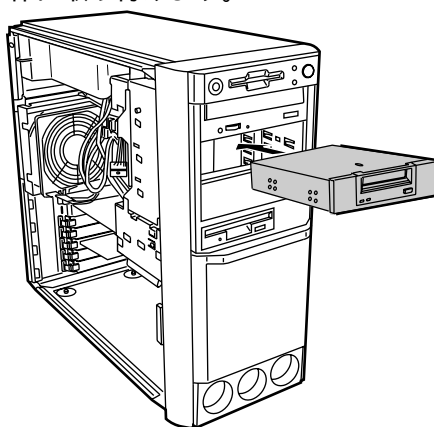
- 1 サイドカバーを取り外します。
- 2 フロントパネルのかくし板 (A) を取り外します。
- 3 ファイルベイの内側のかくし板 (B) を取り外します。



ポイント

取り外したかくし板は大切に保管してください。

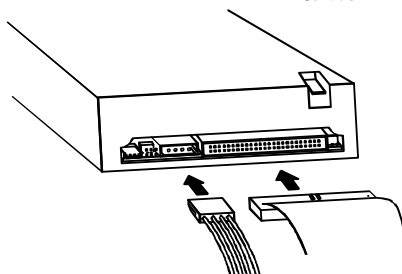
- 4 ドライブの設定を行います。
設定方法は、各ドライブに添付されているマニュアル、または付録の「3 ドライブの設定」(→ 119 ページ) を参照してください。
- 5 ドライブをワークステーション本体に取り付けます。



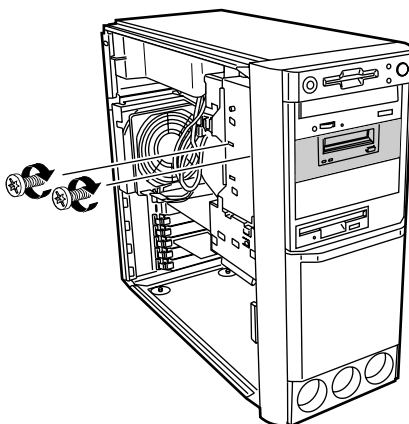
2

内蔵オプションの取り付け

- 6 信号ケーブルおよび電源ケーブルのコネクタをドライブに接続します。



- 7 ドライブをネジで固定します。



- 8 サイドカバーを取り付けます。



ポイント

必要に応じて BIOS 設定でドライブの項目を設定します。

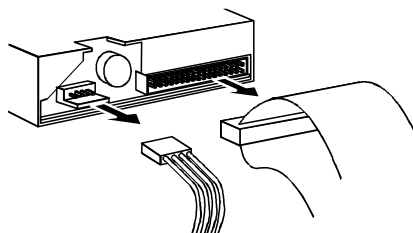
ファイルベイからのドライブの取り外し

取り外しは取り付けと逆の手順で行ってください。

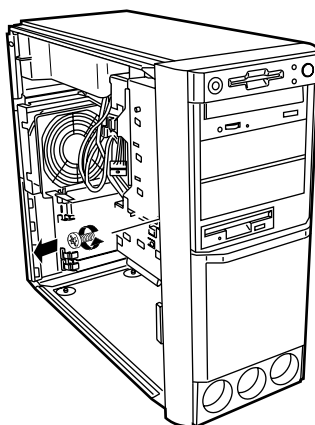
フロッピーディスクドライブベイへの取り付け

スーパーディスクドライブおよび3モードフロッピーディスクドライブを取り付ける場合、フロッピーディスクドライブベイに搭載しているドライブと交換する必要があります。

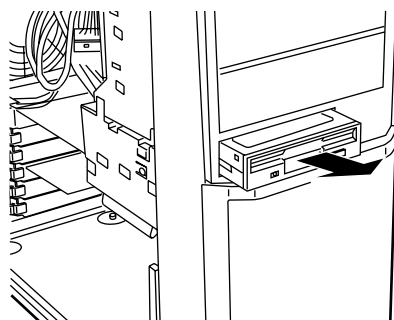
- 1 サイドカバーを取り外します。
- 2 信号ケーブルおよび電源コネクタをドライブから取り外します。



- 3 ネジをはずします。

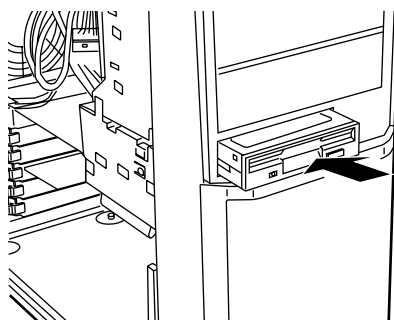


- 4 ドライブをワークステーション本体から取り出します。

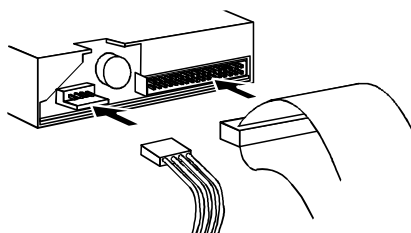


- 5 スーパーディスクドライブの場合、スーパーディスクドライブをマスターに、CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW ドライブをスレーブに、それぞれ設定します。

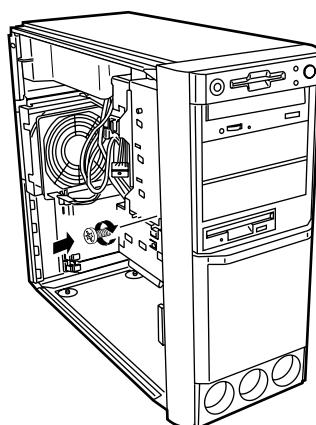
6 ドライブをワークステーション本体に取り付けます。



7 信号ケーブルおよび電源コネクタをドライブに接続します。



8 ドライブをネジで固定します。



9 サイドカバーを取り付けます。



ポイント

必要に応じて BIOS 設定でドライブの項目を設定します。

ハードディスクドライブの内蔵ハードディスクベイへの取り付けと取り外し

■ ハードディスクドライブの搭載組合せについて

ハードディスクドライブは、以下の組合せで搭載してください。

	基本モデル	内蔵ハードディスク交換機構選択時
ファイルベイ -2	SCSI-HDD	SCSI-HDD
ファイルベイ -1	SCSI-HDD	SCSI-HDD
内蔵ハードディスクベイ -2	IDE-HDD	SCSI-HDD (基本)
内蔵ハードディスクベイ -1	IDE-HDD (基本)	搭載不可

■ IDE ハードディスクについて

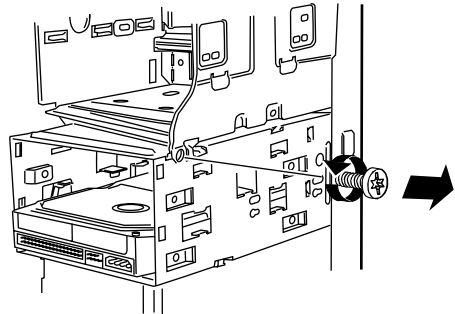
- OS を起動させるハードディスクは、必ずプライマリ IDE コネクタにマスターとして接続してください。スレーブとして接続したり、セカンダリ IDE コネクタに接続したりすると、OS が起動できない場合があります。
- ワークステーション本体に接続されている IDE ケーブルはプライマリ IDE に接続するケーブルとセカンダリ IDE に接続するケーブルとで異なります。プライマリ IDE に接続するケーブルは、UltraDMA/100 に対応しているケーブルですので、IDE ハードディスクはプライマリ IDE 側に接続してください。

■ SCSI ハードディスクについて

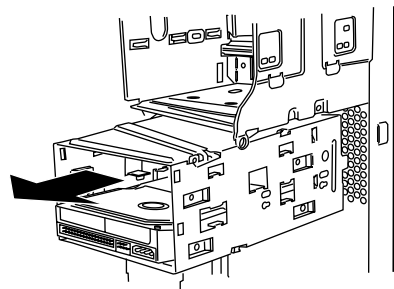
- OS を起動させるハードディスクは、必ず SCSI-ID を 0 番に設定してください。
- SCSI-ID の 0 ~ 15 番は重ならないように設定してください。

■ 内蔵ハードディスクベイの取り外し

- 1 サイドカバーを取り外します。
- 2 信号ケーブルおよび電源コネクタを、ハードディスクドライブから取り外します。
- 3 内蔵ハードディスクベイを固定しているネジを取り外します。

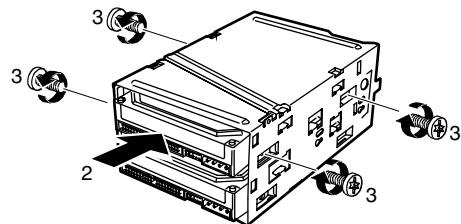


- 4 内蔵ハードディスクベイを矢印方向に引いて、ワークステーション本体から取り外します。



■ 内蔵ハードディスクベイ -2 へのハードディスクドライブの取り付け

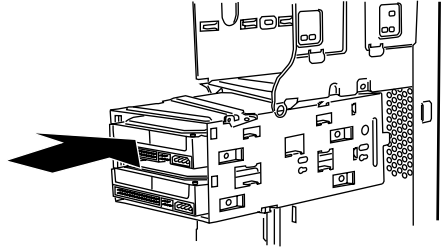
- 1 ハードディスクドライブの設定（マスタ/スレーブの設定など）を行います。
- 2 ハードディスクドライブを内蔵ハードディスクベイに取り付けます。



- 3 ドライブをネジで固定します。

■ 内蔵ハードディスクベイの取り付け

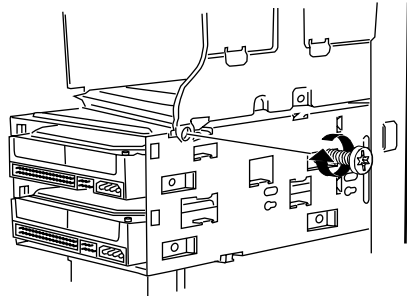
- 1 信号ケーブルおよび電源コネクタを、ハードディスクドライブに接続します。
- 2 内蔵ハードディスクベイを矢印方向に押し、ワークステーション本体に取り付けます。



ポイント

内蔵ハードディスクベイを取り付けるときは、内蔵ハードディスクベイの向きに注意してワークステーション本体に取り付けてください。

- 3 内蔵ハードディスクベイをネジで固定します。



- 4 サイドカバーを取り付けます。

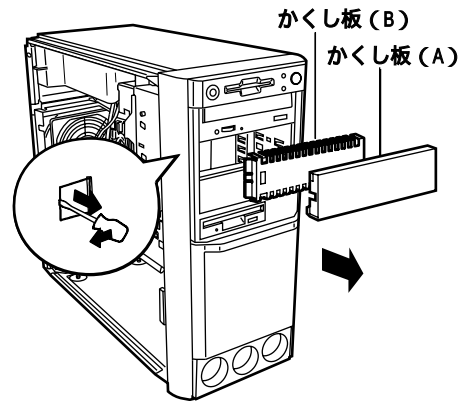


ポイント

必要に応じて BIOS 設定でドライブの項目を設定します。

ハードディスクドライブのファイルベイへの取り付け

- 1 サイドカバーを取り外します。
- 2 フロントパネルのかくし板 (A) とファイルベイ内側のかくし板 (B) を取り外します。



- 3 ハードディスクドライブの設定 (SCSI-ID の設定など) を行います。
- 4 取り付け金具を取り付けたハードディスクドライブを、フロントベイに取り付けます (「ファイルベイへのドライブの取り付け」を参照)。
- 5 取り付けたファイルベイに内蔵ハードディスクユニット取り付け金具に添付されているかくし板を取り付けます。
- 6 サイドカバーを取り付けます。



ポイント

必要に応じて BIOS 設定でドライブの項目を設定します。

3 BIOS 設定

この章では、ハードウェアの環境を設定するために行う、BIOS 設定について説明しています。

Contents

1 BIOS 設定とは	74
2 操作方法	75
3 BIOS Setup のメニューと項目の詳細	77

1 BIOS 設定とは

BIOS 設定は、「BIOS Setup」と呼ばれるプログラムを使用します。

BIOS Setup はメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本ワークステーションでは、必要最小限のことはお買い求めのときにすでに設定されています。次の場合のみ設定を行う必要があります。

- ハードディスクドライブなどの記憶装置を取り外したとき、または取り付けたとき
- 特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- メモリやシリアルポートなどの働きを設定するとき
- メッセージが表示されたとき



ポイント

- BIOS Setup で設定した内容は、ワークステーション本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、バッテリーによって記録した内容を保存しています。BIOS Setup を正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS Setup に関するエラーメッセージが表示されるときは、この CMOS RAM に設定内容が保存されていない可能性があります。バッテリーの消耗が考えられますので、担当営業員、または担当保守員にご相談ください。
- BIOS Setup の設定が正しくないために、3 回続けてシステムが起動しなかった場合、次のシステム起動により、BIOS Setup の設定値は自動的にデフォルトに戻ります。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Previous boot incomplete - Default configuration used
```

[F2] キーを押すと、BIOS Setup の設定値を確認し、修正することができます（「第 4 章 困ったときに」の「1 エラーメッセージ」（→ 106 ページ）を参照してください）。

BIOS Setup の設定が正しくないためにシステムが起動しない場合には、設定を修正します。これによって、システムを正しく設定して、再起動できます。

2 操作方法

BIOS Setup / Boot Menu の操作方法について説明します。

BIOS Setup の操作方法

■ BIOS Setup を始める

BIOS Setup の始めかたは次のとおりです。

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 [F2] キーを押します。
- 3 セットアップパスワードを設定している場合は、そのパスワードを入力し、【Enter】キーを押して確認します。

BIOS Setup の Main メニューが画面に表示されます。

■ 設定値を変更する

BIOS Setup で使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー	メニューバーからメニューを選択します。
【→】キー、【←】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	▶が表示されている項目で、サブメニューを表示します。
【Esc】キー	サブメニューからメインメニューに戻ります。
【+】キー、【-】キー	選択した項目の設定値を変更します。
【F9】キー	各項目の設定値を初期値に戻します。
【F7】キー	すべてのメニューの設定項目を、BIOS Setup 呼び出し時に有効だった設定値に戻します。
【Space】キー	チェックボックスにチェックを付けます。またはチェックを外します。



ポイント

BIOS Setup の設定項目を変更する場合は、変更した設定項目をメモしておくか、変更した画面のページを印刷してください。本ワークステーションの平行ポートにプリンタが接続されていれば、[Shift] キーを押しながら [Print] キーを押すことで、画面に表示されているページを印刷できます。

Boot Menu の操作方法

■ Boot Menu を使用する

Boot Menu の使用方法是次のとおりです。

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 [F12] キーを押します。
Boot Menu 画面が表示されます。
- 3 ブートデバイスを選択します。

3 BIOS Setup のメニューと項目の詳細

BIOS Setup は、5 つのメニューから構成されています。各設定項目は、これらのメニューの下に分類されています。

Main

日付やドライブなどの設定を行います。

PhoenixBIOS Setup Utility				
Main	Advanced	Security	Power	Exit
System Time: [HH:MM:SS]		Item Specific Help		
System Date: [MM/DD/YYYY]				
Diskette A: [1.4M]				
▶ IDE Drive 1: [xxxx]				
▶ IDE Drive 2: [None]				
▶ IDE Drive 3: [xxxx]				
▶ IDE Drive 4: [None]				
▶ Boot Options				
Base Memory: 640K				
Extended Memory: xxxM				
F1 Info ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults				
Esc Exit ↔ Select Menu Enter Select Sub-Menu F7 Previous Values				

- System Time

本ワークステーションの時刻を示します。時刻は "HH:MM:SS" の形式で表示されます。

現在の時刻の設定を変更するには、System Time に新しい時刻を入力します。

- System Date

本ワークステーションの日付を示します。日付は "MM/DD/YYYY" の形式で表示されます。

現在の日付の設定を変更するには、System Date に新しい日付を入力します。

- Diskette A

フロッピーディスクドライブのタイプを指定します。

- None (初期値: スーパーディスクドライブ搭載時)
- 360K
- 1.2M
- 720K
- 1.4M (初期値: フロッピーディスクドライブ搭載時)



ポイント

スーパーディスクドライブを搭載した場合、「None」に設定してください。

- IDE Drive1 ~ IDE Drive4

サブメニューを使用して、接続した IDE デバイスのタイプと動作モードを設定します。

- Type

IDE デバイスのタイプを設定します。

- Auto (初期値)
本ワークステーションがIDEデバイスのタイプを自動的に認識します。
IDE デバイスの各種設定を自分で行わない場合に選択します。
- None
IDE デバイスを使わない場合に選択します。
- Diskette 120M / ZIP
スーパーディスクドライブを接続し、詳細設定を行う場合に選択します。
- CD-ROM
CD-ROM ドライブを接続し、詳細設定を行う場合に選択します。
- Other ATAPI
その他の ATAPI デバイスを接続し、詳細設定を行う場合に選択します。
- User
ハードディスクドライブの詳細設定を行う場合に設定します。



ポイント

通常は「Auto」の設定でお使いください。

- Cylinders, Heads, Sectors/Track, Capacity (CHS/LBA)
(ハードディスクの場合)

本ワークステーションが検出したディスクのシリンダ数 / ヘッド数 / セクタ数 / 最大容量を表示します。

Type を User に設定したときに表示される項目です。

- Transfer Mode

Type を Auto に設定した場合は、本ワークステーションが検出した一括して転送するセクタ数を表示します。

Type を CD-ROM、Diskette 120M/ZIP、Other ATAPI に設定した場合は一括して転送するセクタ数を設定します。

一括して転送するセクタ数が多いほど、ディスクアクセスが高速になります。

- Disabled
 - 1 セクタずつ転送します。一括転送をサポートしていないディスクの場合に選択します。
- 2 Sectors / 4 Sectors / 8 Sectors / 16 Sectors
 - 1 回の割り込みにつき、設定した数のセクタが転送されます。

- LBA Translation

LBA (Logical Block Addressing : 論理的な通し番号によるアクセス) を有効にするかどうかを設定します。

Type を Auto、None 以外に設定したときに表示される項目です。

- Disabled
 - LBA を無効にします。シリンダ番号 / ヘッド番号 / セクタ番号が使われます。
- Enabled
 - LBA を有効にします。

- LBA Translation Mode

物理的ディスクフォーマットを論理的ディスクフォーマットに変換するためのモードを設定します。

Type を Auto、User に設定したときに表示される項目です。

LBA Translation Mode の設定は、ハードディスクが LBA をサポートし、かつ BIOS の LBA Translation を Enabled に設定した場合にだけ有効になります。

- PTL
 - CHS から CHS への変換 (シフト処理) に基づく変換モードにします。
- CHS
 - LBA を利用した、ハードディスクの物理データに基づく変換モードにします。
- LBA
 - LBA を利用した、ハードディスクが報告する最大セクタ数に基づく変換モードにします。

- PIO Mode

データ転送モードを設定します。

Type を Auto、None 以外に設定したときに表示される項目です。

- Standard
 - 2 ~ 4MB/ 秒
- PIO 1
 - 2 ~ 4MB/ 秒

- PIO 2
2 ~ 4MB/ 秒
- PIO 3
5 ~ 10MB/ 秒
- PIO 4
10 ~ 16MB/ 秒
- PIO 3 / DMA 1
15 ~ 10MB/ 秒
- PIO 4 / DMA 2
最大 16MB/ 秒
- PIO 4 / UDMA 16
最大 16MB/ 秒
- PIO 4 / UDMA 25
最大 25MB/ 秒
- PIO 4 / UDMA 33
最大 33MB/ 秒
- PIO 4 / UDMA 44
最大 44MB/ 秒
- PIO 4 / UDMA 66
最大 66MB/ 秒
- PIO 4 / UDMA 100
最大 100MB/ 秒

○ 32 Bit I/O

プロセッサと IDE コントローラとの間のデータ転送バス幅を指定します。
Type を None 以外に設定したときに表示される項目です。

- Disabled
データ転送は 16 ビット幅となります。
- Enabled
データ転送は PCI バスで 32 ビット幅となります。これによってパフォーマンスが向上します。

○ Hard Disk Silent Mode

ハードディスクの速度を落とすことで静音モードにするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
通常モードに設定します。
- Enabled
静音モードに設定します。

○ HD-ID

ハードディスクの ID を表示します。

- Boot Options

サブメニューを使用してシステムの起動に関する設定を行います。

- POST Errors

POST (Power On Self Test) エラーが検出された場合に、システム起動を中止して、システムを停止するかどうかを設定します。

- No Halt On Any Errors
システム起動は中止されません。検出されたエラーは無視されます。
- Halt On All Errors (初期値)
POST でエラーが検出された場合、POST 終了後にシステム起動を中止し、システムを停止させます。

- Fast Boot

POST の対象範囲を減らし、システムの起動を高速化するかどうかを設定します。

- Disabled
すべてのデバイス構成がテストされます。
- Enabled (初期値)
クイックセルフテストが実行されます。この場合、フロッピーディスクドライブはテストされません。

- Quiet Boot

POST 情報ではなくロゴ画面を表示するかどうかを設定します。

- Enabled (初期値)
ロゴ画面が表示されます。[F3] または [Esc] キーを押すか、またはエラーが発生した場合は、POST 情報に切り替わります。
- Disabled
POST 情報が画面に表示されます。

- Primary Display

複数のディスプレイアダプタが組み込まれている場合、BIOS がディスプレイアダプタを検索する順序を設定します。

- PCI VGA
PCI VGA、AGP VGA の順に検索されます。
- AGP VGA (初期値)
AGP VGA、PCI VGA の順に検索されます。

- Boot Menu

ブートメニューを有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (初期値)
ブートメニューを有効にして、システム起動時に [F12] キーを押すことで、通常のブート順序以外の装置からブートできるようにします。
- Disabled
ブートメニューを無効にします。

- Boot Sequence

オペレーティングシステムをどのドライブからどの順番で読み込むかを設定します。

初期値は、以下の順序です。

- 1. ATAPI CD-ROM Drive
- 2. Diskette
- 3. Hard Drive
- 4. Network Boot

- Hard Disk Boot Device

オペレーティングシステムを読み込むハードディスクドライブを指定します。

- Diskette Boot Device

オペレーティングシステムを読み込むフロッピーディスクドライブを指定します。

- Base Memory

1MB 以下の使用可能なベースメモリサイズが表示されます。

- Extended Memory

搭載物理メモリの総容量からベースメモリ分 (1MB) を引いたメモリサイズが表示されます。

Advanced

システムボード上にあるデバイスの設定を行います。

PhoenixBIOS Setup Utility				
Main	Advanced	Security	Power	Exit
Setup Warning Setting items on this menu to incorrect values may cause your system to malfunction. ▶ Peripheral Configuration ▶ PCI Configuration ▶ Advanced System Configuration ▶ Power On/Off ▶ System Management Reset Configuration Data: [No] Lock Setup Configuration: [No] Large Disk Access Mode: [DOS] ATAPI UDMA Auto Detect: [Standard]		Item Specific Help		
F1 Info ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults Esc Exit ↔ Select Menu Enter Select Sub-Menu F7 Previous Values				

3

BIOS 設定

- Peripheral Configuration

サブメニューを使用してシリアル、パラレルポートなどの設定を行います。

- Serial 1/Serial 2

システムボード上の各シリアルポートを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
各シリアルポートを無効にします。
- Enabled
各シリアルポートを有効にします。
- Auto (初期値)
本ワークステーションが自動的に I/O アドレスと割り込み要求を割り当てます。
- OS Controlled
各シリアルポートの設定はオペレーティングシステムが行います。

○ Serial 1 Address / Serial 2 Address

各シリアルポートの I/O アドレスと割り込み要求を設定します。
Serial 1/Serial 2 を Enabled に設定したときに表示される項目です。

- 3F8h、IRQ4（初期値：Serial 1）
- 2F8h、IRQ3（初期値：Serial 2）
- 3E8h、IRQ4
- 2E8h、IRQ3

○ Parallel

システムボード上のパラレルポートを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
パラレルポートを無効にします。
- Enabled
パラレルポートを有効にします。
- Auto（初期値）
本ワークステーションが自動的に I/O アドレスと割り込み要求を割り当てます。
- OS Controlled
パラレルポートの設定はオペレーティングシステムが行います。

○ Parallel Mode

パラレルポートのデータ転送モードを設定します。
Parallel を Enabled に設定したときに表示される項目です。

- Printer
出力専用モードを使う周辺装置を接続するときに選択します。
- Bidirection（初期値）
双方向モードを使う周辺装置を接続するときに選択します。
- EPP
EPP（Enhanced Parallel Port）規格の周辺装置を接続するときに選択します。
- ECP
ECP（Enhanced Capability Port）規格の周辺装置を接続するときに選択します。

○ Parallel Address

各パラレルポートの I/O アドレスと割り込み要求を設定します。
Parallel を Enabled に設定したときに表示される項目です。

- 378h、IRQ7（初期値）
- 278h、IRQ5
- 3BCh、IRQ7

- DMA Channel

パラレルポートが使用する DMA を設定します。

Parallel Mode を ECP に設定したときに表示される項目です。

- DMA1 (初期値) DMA3

- Diskette Controller

フロッピーディスクコントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
フロッピーディスクコントローラを無効にします。
- Enabled (初期値)
フロッピーディスクコントローラを有効にします。

- Hard Disk Controller

IDE コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
IDE インタフェースを無効にします。IDE インタフェースに接続されているデバイスは使用できなくなります。
- Primary
プライマリ IDE インタフェースを有効にします。セカンダリ IDE インタフェースに接続されているデバイスは使用できなくなります。
- Primary And Secondary (初期値)
プライマリ IDE、セカンダリ IDE インタフェースを有効にします。

- Mouse Controller

マウスコントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Enabled
マウスコントローラを有効にします。
- Disabled
マウスコントローラを無効にします。
- Auto Detect (初期値)
マウスを自動的に検索し、有効にします。

- AC'97 Audio

システムボード上のオーディオコントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Auto (初期値)
オーディオコントローラを有効にします。
- Disabled
オーディオコントローラを無効にします。

- Gameport

システムボード上のゲームポートを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
ゲームポートを無効にします。
- Enabled
ゲームポートを有効にします。

- Base I/O Address

Gameport の I/O アドレスを設定します。Gameport を Enabled にしたときに表示される項目です。

- 201h (初期値)
- 211h



ポイント

本ワークステーションでは、ゲームポートをサポートしていません。初期値から変更しないでください。

- Midiport

システムボード上の MIDI ポートの有効にするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
MIDI ポートを無効にします。
- Enabled
MIDI ポートを有効にします。
- Auto
本ワークステーションが自動的に I/O アドレスと割り込み要求を割り当てます。
- OS Controlled
MIDI ポートの設定はオペレーティングシステムが行います。



ポイント

本ワークステーションでは、MIDI ポートをサポートしていません。初期値から変更しないでください。

- Base I/O Address

MIDI ポートの I/O アドレスを設定します。

Midiport を Enabled に設定したときに表示される項目です。

- 330-331 (初期値)
- 300-301

- Interrupt

MIDI ポートの割り込み要求を設定します。

Midiport を Enabled に設定したときに表示される項目です。

- IRQ3 (初期値) / IRQ4、IRQ5、IRQ7、IRQ9、IRQ10

- PCI Configuration

サブメニューを使用して PCI デバイスの設定を行います。

- PCI IRQ Line x

どの PCI 割り込みを、どの PCI スロットに割り当てるかを設定します。

- Disabled

PCI 割り込みを PCI スロットに割り当てません。

- Auto (初期値)

PCI 割り込みは、Plug&Play ガイドラインに従って PCI スロットに自動的に割り当てられます。

- IRQ 3 / IRQ 4 / IRQ 5 / IRQ 6 / IRQ 7 / IRQ 9 / IRQ10 /
IRQ11 / IRQ12 / IRQ14 / IRQ15

選択した PCI 割り込みを、PCI スロットに割り当てます。システムボード上のコントローラなどが使っている割り込みは、選択できません。

- Advanced System Configuration

サブメニューを使用して追加設定を行います。

- PCI Bus Parity Checking

PCI バスのパリティチェックを行うかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)

パリティチェックを行いません。

- Enabled

パリティチェックを行います。

- Graphics Aperture

AGP カードを使用している場合に、グラフィックスアパーチャのサイズを設定します。この機能を使用して、使用可能なビデオメモリを拡大することができます。

- 4MB/8MB/16MB/32MB/64MB (初期値) /128MB/256MB

- USB Host Controller

USB コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (初期値)

USB コントローラを有効にします。

- Disabled

USB コントローラを有効にしません。

- USB Legacy Support

Windows NT など USB をサポートしていない OS で USB キーボードまたは USB マウスを使用できるようにするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
USB デバイスを使用できないようにします。
- Enabled
USB デバイスを使用できるようにします。

- BIOS Work Space Location

BIOS の作業領域に使うメモリの位置を設定します。

- Expansion ROM Area (初期値)
DOS のメモリ領域で使用可能な領域を利用します。
- Top Of Base Memory
SCSI BIOS などの拡張 BIOS が使う領域で使用可能な領域を利用します。

- APIC mode

システムボードの APIC mode を有効にするかどうかを設定します。
通常は「Disabled」のまま使用してください。

- Disabled (初期値)
APIC mode を無効にします。
- Enabled
APIC mode を有効にします。

- Power On/Off

サブメニューを使用して電源のオン / オフ設定を行います。

- Power Off Source

次のサブメニューが表示されます。

- Software

プログラム (DeskView (DeskOff)) またはオペレーティングシステム (Windows NT with Fujitsu HAL) を使って電源を切ることができるようにするかどうかを設定します。

- Disabled
電源を切ることができないようにします。
- Enabled (初期値)
電源を切ることができるようにします。

- Keyboard

電源ボタン付きキーボードを使って、電源を切ることができるようにするかどうかを設定します。

- Enabled
電源を切ることができるようにします。
- Disabled (初期値)
電源を切ることができないようにします。

**ポイント**

本ワークステーションでは、電源ボタン付きのキーボードはサポートしていません。初期値から変更しないでください。

- Power Button

ACPI 機能が有効でない場合、電源スイッチで電源を切ることができるようにするかどうかを設定します。

- Enabled (初期値)
電源を切ることができるようにします。
- Disabled
電源を切ることができないようにします。

**ポイント**

本ワークステーション前面の電源スイッチを 4 秒より長く押し続けると、この設定にかかわらず電源を切ることができます。

- Power On Source

電源管理機能を OS 上で制御するか、BIOS 設定を優先するかを設定します。

- Bios Controlled (初期値)
電源管理機能を BIOS で制御します。
- ACPI Controlled
電源管理機能を OS 上で制御します。

- Chipcard

スマートカードリーダーを使って電源を入れることができるようにするかどうかを設定します。

- Disabled
電源を入れることができないようにします。
- Enabled (初期値)
電源を入れることができるようにします。

- Remote

モデム（シリアルポートに接続）にリング信号が着信したときに、電源を入れることができるようにするかどうかを設定します。

- Disabled
電源を入れることができないようにします。
- Enabled（初期値）
電源を入れることができるようにします。

- LAN

LAN 経由で電源を入れることができるようにするかどうかを設定します。

- Disabled
電源を入れることができないようにします。
- Enabled（初期値）
電源を入れることができるようにします。

- Timer

特定の時刻、または一定時間後に電源を入れることができるようにするかどうかを設定します。

BIOS Setup では、起動時刻は指定できません。この起動時刻を設定するには、適切なプログラムが必要になります。

- Disabled
電源を入れることができないようにします。
- Enabled（初期値）
電源を入れることができるようにします。

- LAN Wakeup Mode

次のサブメニューが表示されます。

- Monitor

LAN 経由で電源を入れたときに、ディスプレイをオンにするか、オフのままにするかを設定できます。

Power On Source:LAN が Enabled に設定されている必要があります。

- Off
モニタをオフのままにします。
- On（初期値）
モニタをオンにします。

- Power Failure Recovery

停電などから復旧したときに電源を自動的に入れるかどうかを設定します。

- Always Off
電源が入らないようにします。
- Always On
電源が入るようにします。
- Previous State (初期値)
停電などが起きる前の状態にします。
- Disabled
電源が復帰したときの処理を行わず、ワークステーション本体の初期値にします。

- System Management

サブメニューを表示してファンや温度センサなどの監視項目を設定します。

- Fan Control

ファンの回転速度を制御するかどうかを設定します。

- Enhanced Cooling
より早くファンの回転速度を温度に応じて制御します。
- Auto (初期値)
ファンの回転速度を温度に応じて制御します。
- Silent
プロセッサの処理速度を温度に応じて制御します。

**ポイント**

本ワークステーションでは、Silent に設定しないでください。

- SM Error Halt

ファンまたは温度センサでエラーが発生した場合の処理手順を設定します。

- Disabled (初期値)
システムは POST 時に停止せず、エラーメッセージの表示だけが行われます。
- Enabled
ファンまたは温度センサのエラーが検出された場合、あるいはファンまたは温度センサが取り除かれた場合、システムは POST 時に停止します。

- Fan State

プロセッサ (CPU)、Power Supply、System、および Auxiliary のファンが正常に動作しているかどうかを表示します。

OK は、正常に動作していることを示します。

None は、ファンが取り付けられていないことを示します。

Fail は、BIOS がファンの故障を検出したことを示します。

BIOS Setup を終了すると、ステータス Fail はリセットされます。

- CPU 0
ステータスの種類：None/OK/Fail
- System
ステータスの種類：None/OK/Fail
- Auxiliary
ステータスの種類：None/OK/Fail
- Power Supply1、Power Supply2
ステータスの種類：None/OK/Fail

- Temp

プロセッサ (CPU)、System、および Auxiliary の温度センサが正常に動作しているかどうかを表示します。

OK は、正常に動作していることを示します。

None は、温度センサが取り付けられていないことを示します。

Fail は、BIOS が温度センサの故障を検出したことを示します。

BIOS Setup を終了すると、ステータス Fail はリセットされます。

- CPU 0
ステータスの種類：None/OK/Fail
- System
ステータスの種類：None/OK/Fail
- Auxiliary
ステータスの種類：None/OK/Fail

- Reset Configuration Data

システムリソースが記録されている ESCD (Extended System Configuration Data) の初期化について設定します。

- No (初期値)
ESCD を初期化しません。
- Yes
再起動時に ESCD を初期化します。

- Lock Setup Configuration

設定パラメタが Plug&Play オペレーティングシステムにより変更できるかどうかを設定します。

- No (初期値)
Plug&Play オペレーティングシステムが設定パラメタを変更できないようにします。
- Yes
Plug&Play オペレーティングシステムが設定パラメタを変更できるようにします。

- Large Disk Access Mode

容量の大きな (1024 シリンダ、16 ヘッドを超える) ハードディスクに対応するハードディスクアクセスのタイプを設定します。

- Other
MS-DOS と互換性のないハードディスクアクセスを使用するオペレーティングシステムの場合 (Novell、SCO Unix など)。
- DOS (初期値)
MS-DOS と互換性のあるハードディスクアクセスを使用するオペレーティングシステムの場合。

- ATAPI UDMA Auto Detect

IDE デバイスの Ultra DMA モードを自動検出するかどうかを設定します。通常は「Standard」のまま使用してください。

- Standard (初期値)
Ultra DMA モードを自動検出します。
- Disabled
Ultra DMA モードを自動検出しません。

Security

セキュリティに関する設定を行います。

Security メニューには、システムと個人データを無許可のアクセスから保護するための各種オプションがあります。これらのオプションを組み合わせることで、システムを最大限に保護することができます。

PhoenixBIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Server	Boot	Exit
Setup Password		Not Installed	Item Specific Help		
System Password		Not Installed			
Set Setup Password:		[Press Enter]			
Setup Password Lock:		[Standard]			
Set Sytem Password:		[Press Enter]			
System Password Mode:		[System]			
▶ Hard Disk Security					
System Load:		[Standard]			
Setup Prompt:		[Enabled]			
Virus Warning:		[Disabled]			
Diskette Write:		[Enabled]			
Flash Write:		[Enabled]			
Sicrypt PC-Lock:		[Disabled]			
Cabinet Monitoring:		[Disabled]			
F1 Info	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults		
Esc Exit	↔ Select Menu	Enter Select Sub-Menu	F7 Previous Values		

- Setup Password / System Password

各パスワードが設定されているかどうかを表示します。

- Set Setup Password

セットアップパスワードを設定します。セットアップパスワードによって、BIOS Setup の無許可での開始を防止します。

このフィールドを選択して、[Enter] キーを押します。次に、セットアップパスワードを入力します。

- Setup Password Lock

セットアップパスワードで保護される対象範囲を設定します。
セットアップパスワードが設定されている必要があります。

- Standard (初期値)

セットアップパスワードによって、BIOS Setup の無許可での開始を防止します。

- Extended

セットアップパスワードによって、BIOS Setup の無許可での開始を防止するだけでなく、POST 時にキーボードをロックします。これにより、専用 BIOS を持つ拡張カードに対する設定の無許可での開始を防止できます。
拡張カードにアクセスするには、POST 時にセットアップパスワードを入力しなければなりません。パスワードを入力したら、[Enter] キーを押します。パスワードの入力を要求するメッセージは表示されません。

- Set System Password

システムパスワードを設定します。システムパスワードによって、システムに対する無許可アクセスを防止できます。
セットアップパスワードが設定されている必要があります。
このフィールドを選択して、[Enter] キーを押します。次に、システムパスワードを入力します。

- System Password Mode

システムパスワードで保護される対象範囲を設定します。
セットアップパスワードとシステムパスワードが設定されている必要があります。

- System (初期値)

システム起動時には、システムパスワードを入力することでオペレーティングシステムを起動できます。

- Keyboard

システム起動時には、オペレーティングシステムが起動され、キーボードとマウスがロックされます。システムパスワードを入力すると、キーボードとマウスのロックが解除されます。パスワードの入力を要求するメッセージは表示されません。



ポイント

USB キーボードを使っている場合は、「Keyboard」には設定できません。USB キーボードを使う場合には、「System」を選択してください。

- Hard Disk Security

サブメニューを使用してハードディスクへのアクセス制限を設定します。

- Hard Disk Security

ハードディスクへのアクセス制御を設定します。

- Disabled (初期値)
アクセス制御を設定しません。
- Enabled
アクセス制御を設定します。

- HDD 1 Password IS ~ HDD 4 Password IS

IDE HDD1 ~ 4 にパスワードが設定されているかどうかを表示します。

- Set HDD 1 Password ~ Set HDD 4 Password

IDE HDD1 ~ 4 にパスワードを設定します。

「Hard Disk Security」の設定を「Enabled」に設定したときに表示されます。
ただし、本ワークステーションは「Hard Disk Security」をサポートしていませんので、パスワードは設定できません。



ポイント

本ワークステーションでは、Hard Disk Security の機能をサポートしていません。初期値から変更することはできません。

- System Load

システムをフロッピーディスクや CD-ROM から起動できるようにするかどうかを設定します。

- Standard (初期値)
システムをフロッピーディスクや CD-ROM から起動できるようにします。
- Diskette/CDROM Lock
システムをフロッピーディスクや CD-ROM から起動できないようにします。

- Setup Prompt

システムの再起動時に POST 画面にセットアップメッセージ「Press F2 to enter SETUP」を表示するかどうかを設定します。

- Disabled
セットアップメッセージを表示しないようにします。
- Enabled (初期値)
セットアップメッセージを表示するようにします。

- Virus Warning

前回のシステム起動時以降に、ハードディスクドライブのブートセクタの変更の有無をチェックするかどうかを設定します。ブートセクタが変更されていて、その理由が不明な場合には、コンピュータウイルス検出プログラムを実行する必要があります。

- Disabled (初期値)
ブートセクタの変更のチェックを行いません。
- Enabled
前回のシステム起動時以降にブートセクタが変更されている場合には (オペレーティングシステムの新規導入、またはウイルスによる破壊など) 警告が表示されます。警告は、Confirm で変更を確認するか、または Disabled でこの機能を無効にするまで表示され続けます。
- Confirm
ブートセクタの変更をチェックします (オペレーティングシステムの新規インストールなど)。

- Diskette Write

フロッピーディスクの書き込みを保護するかどうかを設定します。

- Disabled
フロッピーディスクへの書き込みを禁止します。
- Enabled (初期値)
フロッピーディスクへの書き込みを許可します。

- Flash Write

システム BIOS に対する書き込みを保護するかどうかを設定します。

- Disabled
システム BIOS には書き込みを禁止します。フロッピーディスクからフラッシュ BIOS をアップデートすることはできません。
- Enabled (初期値)
システム BIOS に対する書き込みを許可します。フロッピーディスクからフラッシュ BIOS をアップデートできます。

- Sicrypt PC-Lock

Sicrypt® PC-Lock を有効にするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
Sicrypt® PC-Lock を無効にします。
- Enabled
Sicrypt® PC-Lock を有効にします。初期化された Sicrypt カードと個人識別番号 (PIN) がなければ、本ワークステーションを起動できなくなります。



ポイント

本ワークステーションでは、Sicrypt® PC-Lock はサポートしていません。初期値から変更しないでください。

- Cabinet Monitoring

ワークステーション本体のカバーを開けたあと、ワークステーション本体をそのまま使用可能にするか、セットアップパスワードを入力するまで使用できないようにするかを設定します。

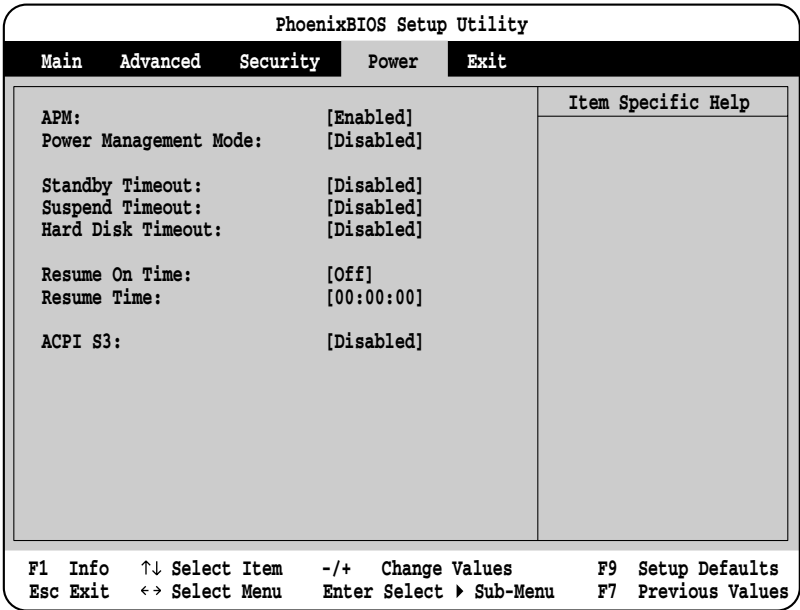
- Disabled (初期値)

カバーを開けたあとでも、ワークステーション本体は通常通り使用可能になります。パスワードは不要です。

- Enabled

カバーを開けたあと、ワークステーション本体はセットアップパスワードを入力するまで使用できなくなります。

省電力モードに関する設定を行います。



- APM
APM に対応した OS で省電力モードを有効にするかどうかを設定します。
 - Disabled
省電力モードを無効にします。
 - Enabled (初期値)
省電力モードを有効にします。
- Power Management Mode
省電力機能の範囲を設定します。
 - Disabled (初期値)
省電力モードを無効にします。
 - Customize
Standby Timeout、Suspend Timeout、および Hard Disk Timeout で設定した機能が電源管理で有効になります。
 - Maximum Power Savings
自動的に最大の省電力モードが有効になります。
 - Maximum Performance
処理速度を最優先させます。

- Standby Timeout

スタンバイモードに移行する時間を設定します。スタンバイモードでは、画面には何も表示されません。

Wakeup Event が発生すると、スタンバイモードは終了されます。

Power Management Mode が Customized に設定されている必要があります。

- Disabled (初期値)
スタンバイモードには移行しません。
- 2 min
- 5 min
- 10 min
- 15 min
- 30 min

- Suspend Timeout

サスペンドモードに移行する時間を設定します。サスペンドモードでは、画面には何も表示されず、プロセッサは停止されます。

Wakeup Event が発生すると、サスペンドモードは終了されます。

Power Management Mode が Customize に設定されている必要があります。



ポイント

ネットワーク環境では、データ転送が中止されるため、Suspend Timeout は Disabled に設定する必要があります。

- Disabled (初期値)
サスペンドモードには移行しません。
- 2 min
- 15 min
- 30 min
- 1 h
- 2 h

- Hard Disk Timeout

ハードディスクドライブをスタンバイモードに移行する時間を設定します。

Power Management Mode が Customize に設定されている必要があります。

- Disabled (初期値)
ハードディスクドライブはスタンバイモードには移行しません。
- 2 min
- 5 min
- 10 min
- 15 min

- Resume On Time

Resume Time で指定した時刻にシステムを起動できるようにするかどうかを設定します。

- Off (初期値)
システムを起動できません。
- On
システムを起動できます。

- Resume Time

レジュームする時刻を設定します。

Resume On Time が On に設定されている必要があります。

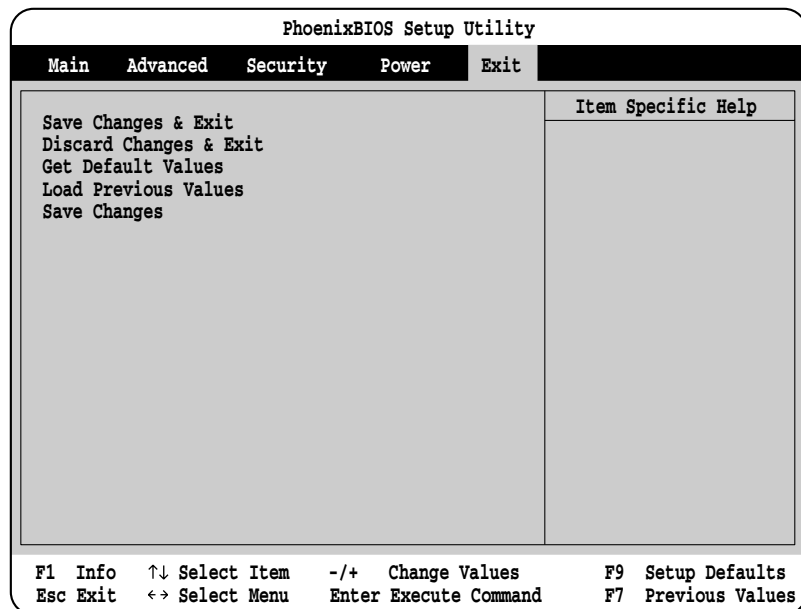
- ACPI S3

Save-to-RAM の機能を使用可能にするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値 : Millennium G450 / CELSIUS Wildcat 5110 搭載時)
オペレーティングシステムからは Save-to-RAM の機能を使用できません。
- Enabled (初期値 : CELSIUS GL2 / CELSIUS Quadro2 MXR 搭載時)
ACPI をサポートしたオペレーティングシステムが、Save-to-RAM の機能を使用できるようにします。

Exit

BIOS Setup を終了します。



- Save Changes & Exit

設定した値を保存して終了します。

- Discard Changes & Exit

設定した値を保存しないで終了します。

- Get Default Values

設定値を本ワークステーションの標準状態に戻します。



ポイント

「Get Default Values」は、設定値を標準状態に戻すものであり、本ワークステーションの工場出荷設定とは異なります。工場出荷設定に戻すには、「Get Default Values」で標準状態に戻したあと、以下の設定を変更してください。

- [Main] - [Diskette A] を「None」にします（スーパーディスクドライブ搭載時）。
- [Power] - [Power Management Mode] を「Disabled」にします。
- [Power] - [ACPI S3] を搭載グラフィックカードに応じて以下のように設定します。
 - 「Disabled」
（Millennium G450 / CELSIUS Wildcat 5110 搭載時）
 - 「Enabled」
（CELSIUS GL2 / CELSIUS Quadro2 MXR 搭載時）

- Load Previous Values

BIOS Setup の起動時に有効であった値を設定します。

- Save Changes

設定した値を保存します。

パスワードを忘れてしまったときには

Security メニューで設定したパスワードを忘れてしまい、起動やセットアップができなくなったら、次の手順に従ってください。

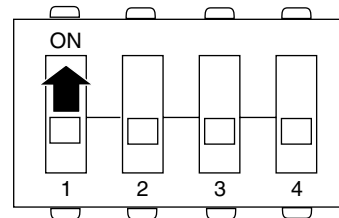


感 電



- ジャンパセッティングを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、メインスイッチを「O」側にし、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。
- 電源を切った直後は、ワークステーション内部の装置が熱くなっています。電源を切ったあと、10 分ほど待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。

- 1 本ワークステーションの電源を切り、サイドカバーを取り外します。
- 2 システムボード上のコンフィグレーションスイッチ 1 を OFF から ON に変更します。



- 3 サイドカバーを取り付け、電源を入れます。
- 4 [F2] キーを押します。
- 5 Security メニューの「Set System Password」で、新しいパスワードを入力します。
- 6 Exit メニューの [Save Change & Exit] をクリックします。
BIOS セットアップが終了します。
- 7 電源を切り、サイドカバーを取り外します。
- 8 システムボード上のコンフィグレーションスイッチ 1 を ON から OFF に戻します。
- 9 サイドカバーを取り付け、電源を入れます。
- 10 BIOS セットアップでパスワードを再設定します。

4 困ったときに

この章は、本ワークステーションを使用していて思うように動かないときなどに、どうすればよいかを説明しています。

Contents

1 エラーメッセージ	106
2 こんなときには	110
3 どうしても解決できないときは	112

1 エラーメッセージ

ここでは、本ワークステーションが表示するエラーメッセージの対処方法について説明しています。必要に応じてお読みください。

ビープ音をともなうエラー

本ワークステーションの起動時にビープ音が鳴った場合、ワークステーション本体が故障している可能性があります。この場合は、担当営業員、または担当保守員に連絡してください。

ビープ音が鳴る回数	エラー	意味
1-3-4-1	RAM エラー	アドレスラインでエラーが発生しました。 担当営業員、または担当保守員に連絡してください。
1-3-4-3	RAM エラー	データ bit でエラーが発生しました。 担当営業員、または担当保守員に連絡してください。
1-4-1-1	RAM エラー	データ bit でエラーが発生しました。 担当営業員、または担当保守員に連絡してください。

エラーメッセージ

エラーメッセージが表示された場合は、エラーメッセージを確認し、次の処置を行ってください。

- BIOS Setup を実行する

BIOS に関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS Setup を再実行してください。

- 内蔵オプションの取り付けを確認する

オプションの拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込みレベルなど正しく設定されているかどうか確認してください。このとき、拡張カードに添付のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルも併せて参照してください。

上記の処置を実施しても、まだエラーメッセージが発生する場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。担当営業員、または担当保守員へ連絡してください。

次に、エラーメッセージを示します。

エラーメッセージ	意味と対処方法
BIOS update for installed CPU failed	このメッセージが表示された場合は担当営業員または担当保守員までご連絡ください。
CPU ID 0x failed	本ワークステーションを再起動します。その後もこのメッセージが表示される場合は、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。
Diskette drive A error Diskette drive B error	BIOS Setup の Main メニューでディスクドライブのエントリを確認します。ディスクドライブのコネクタを確認してください。
Extended RAM Failed at offset: nnnn Failing Bits: nnnn System RAM Failed at offset: nnnn	本ワークステーションを再起動します。その後もこのメッセージが表示される場合は、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。
Failure Fixed Disk 0 Failure Fixed Disk 1 Fixed Disk Controller Failure	BIOS Setup で、Main メニューのハードディスクドライブのエントリと、Advanced - Peripheral Configuration メニューの IDE ドライブコントローラのエントリを確認します。ハードディスクドライブのコネクタとジャンパを確認してください。
Incorrect Drive A - run SETUP Incorrect Drive B - run SETUP	BIOS Setup の Main メニューでディスクドライブのエントリを訂正します。
Invalid NVRAM media type	本ワークステーションを再起動します。その後もこのメッセージが表示される場合は、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。
Invalid System Configuration Data	BIOS Setup の Advanced メニューで、エントリ Reset Configuration Data を Yes に設定します。

エラーメッセージ	意味と対処方法
Invalid System Configuration Data - run configuration utility Press F1 to resume, F2 to Setup	このエラーメッセージは、システムの起動中にマシンを停止した場合に表示される場合があります。 BIOS Setup を呼び出し、Advanced メニューを表示します。メニュー項目 Reset Configuration Data を選択し、設定を Yes に変更します。変更を保存して BIOS Setup を終了します。本ワークステーションを再起動します。
Keyboard controller error	キーボードまたはマウスを別のものに交換します。その後もこのメッセージが表示される場合は、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。
Keyboard error	キーボードが正しく接続されているかどうか確認してください。
Keyboard error nn nn Stuck Key	キーボードのキー nn を解放してください (nn はそのキーを表す 16 進コードです)。
Missing or invalid NVRAM token	デバイスをいったん停止し、再起動します。その後もこのメッセージが表示される場合は、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。
Monitor type does not match CMOS - RUN SETUP	BIOS Setup の Main メニューでモニタタイプのエントリを訂正します。
On Board PCI VGA not configured for Bus Master	BIOS Setup の Advanced メニューにあるサブメニュー PCI Configuration で、Shared PCI Master Assignment エントリを VGA に設定します。
Operating system not found	BIOS Setup の Main メニューで、ハードディスクドライブおよびフロッピーディスクドライブのエントリと、Boot Sequence サブメニューのエントリを確認してください。
Parity Check 1 Parity Check 2	本ワークステーションを再起動します。その後もこのメッセージが表示される場合は、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。
Previous boot incomplete - Default configuration used	[F2] キーを押すと、BIOS Setup の設定を確認し、修正することができます。[F1] キーを押すと、システム構成が不完全なままでシステムを起動します。その後もこのメッセージが表示される場合は、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。
Real time clock error	BIOS Setup を呼び出し、Main メニューで正確な時刻を入力します。その後もこのメッセージが表示される場合は、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。
System battery is dead - Replace and run SETUP	このメッセージが表示された場合は、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。
System Cache Error - Cache disabled	本ワークステーションを再起動します。その後もこのメッセージが表示される場合は、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。
System CMOS checksum bad - - Default configuration used	BIOS Setup を呼び出し、現在のエントリを修正するか、またはデフォルトエントリに設定してください。

エラーメッセージ	意味と対処方法
System Disabled [00861]	セットアップパスワードが正しく入力されていません。電源スイッチを押してシステムを再起動させ、正しいセットアップパスワードを入力してください。
System Disabled [03358]	システムパスワードが正しく入力されていません。電源スイッチを押してシステムを再起動させ、正しいシステムパスワードを入力してください。
System timer error	本ワークステーションを再起動します。その後もこのメッセージが表示される場合は、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。
Uncorrectable ECC DRAM error DRAM Parity error Unknown PCI error	本ワークステーションを再起動します。その後もこのメッセージが表示される場合は、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。

2 こんなときには

ここでは、各機能に関するトラブル情報について記載しています。必要に応じてお読みください。

- アクセス表示ランプがつかない
本ワークステーションが故障している可能性があります。担当営業員または担当保守員にご相談ください。
- 画面に何も表示されない
次のことを確認してください。
 - ディスプレイの電源が切れていませんか。
電源スイッチを押してください。
 - 省電力モードが設定されていませんか。
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。
 - ディスプレイのケーブルは、正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」(→ 30 ページ)を参照してディスプレイのケーブルを正しく接続してください。
 - ディスプレイの電源ケーブルは、コンセントに接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」(→ 30 ページ)を参照して電源ケーブルを正しく接続してください。



ケーブルは、必ず電源を切ってから接続し直してください。
感電の原因となります。

- ディスプレイのブライトネス/コントラストボリュームは、正しく調節されていますか。ブライトネス/コントラストボリュームで画面を調節してください。
- 画面が揺れる
近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか。強い磁界が発生するものは、ディスプレイから離して置いてください。
- 画面の両サイドが欠ける
使用するディスプレイの調整ボタンで、水平画面サイズを調整してください。
- フロッピーディスク/スーパーディスクの読み込み、書き込みができない
次のことを確認してください。
 - フロッピーディスクドライブ/スーパーディスクドライブのヘッドが汚れていませんか。クリーニングフロッピーディスクでヘッドの汚れを落としてください(「付録5 お手入れ」の「フロッピーディスクドライブおよびスーパーディスクドライブのクリーニング」(→ 130 ページ)参照)。

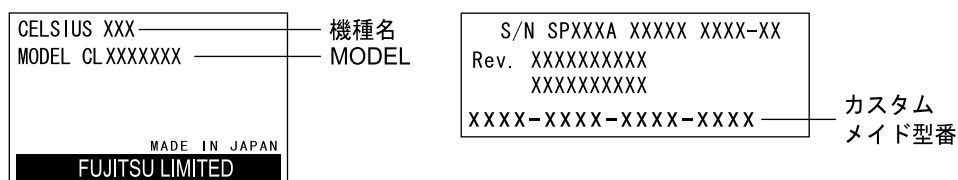
- フロッピーディスク/スーパーディスクが書き込み禁止になっていませんか。フロッピーディスク/スーパーディスクのライトプロテクトノッチを書き込み可能な位置にしてください。
- 電源が入らない、前面にある電源ランプがつかない
次のことを確認してください。
 - 電源ケーブルは、コンセントに接続されていますか。確認してください。
- CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW ドライブから、データの読み込みができない。
次のことを確認してください。
 - CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW (以下まとめて媒体とします) をトレイの中央に正しくセットしていますか。媒体のレーベル面を上にして、セットし直してください。
 - 媒体が表裏逆に入っていませんか。媒体のレーベル面を上にして、正しくセットしてください。
 - 媒体が汚れていたり、結露または水滴がついていたりしていませんか。乾いた柔らかい布で中央から外側に向かって拭いてください。
 - 媒体に傷がついていたり、極端にそっていたりしていませんか。そのような場合には、媒体を交換してください。
 - 規格外の媒体を使用していませんか。規格に合った媒体を使用してください。
- キーボードから入力した文字が表示されない
キーボードは正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」(→ 30 ページ)を参照し、確認してください。
- マウスカーソルが動かない
マウスは正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」(→ 30 ページ)を参照し、確認してください。
- マウスの中ボタンが動作しない
標準添付されている3ボタンマウスの中ボタンは、3ボタン対応アプリケーションを使用しているときにのみ動作します。したがって通常は中ボタンは機能しません。ご了承ください。
- ネットワークに接続できない
次のことを確認してください。
 - ネットワークケーブルが正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」(→ 30 ページ)を参照し、確認してください。
 - 100Mbps で通信している場合、カテゴリ5のUTPケーブルをお使いですか。カテゴリ5のUTPケーブルをお使いください。
 - ハブユニットのACT/LNKランプが点灯していますか。ハブユニットを確認してください。
 - TCP/IP プロトコルをお使いの場合、Ping コマンドを使って接続できているか確認してください。

3 どうしても解決できないときは

どうしても原因がわからないときや、元の状態に戻せないときは、担当営業員または担当保守員へ連絡してください。なお、お問い合わせ前に機種名 / MODEL / カスタムメイド型番を確認してください。

機種名 / MODEL / カスタムメイド型番の表記場所

ワークステーション本体背面のラベルに記載されています。



お問い合わせ前の確認シート

お客様の環境

お使いのワーク ステーションの 機種は？	機種名：CELSIUS		MODEL：
	カスタムメイド型番：		
	購入日：		
メモリの容量は？	本体標準：MB		
	増設：MB	[メーカー：] [型番：]	
増設した 周辺機器は？	種類	型番号	メーカー
お使いの ソフトウェアは？	ソフトウェア名	バージョン / レベル	メーカー

トラブル状況

トラブルの内容は？	
何をしているときに 起こりましたか？	
エラーメッセージは 表示されましたか？ その内容は何ですか？	
以前は問題なく 動作していましたか？	・ 以前は動作した ・ 今回初めて試した ・ 以前から動作しない

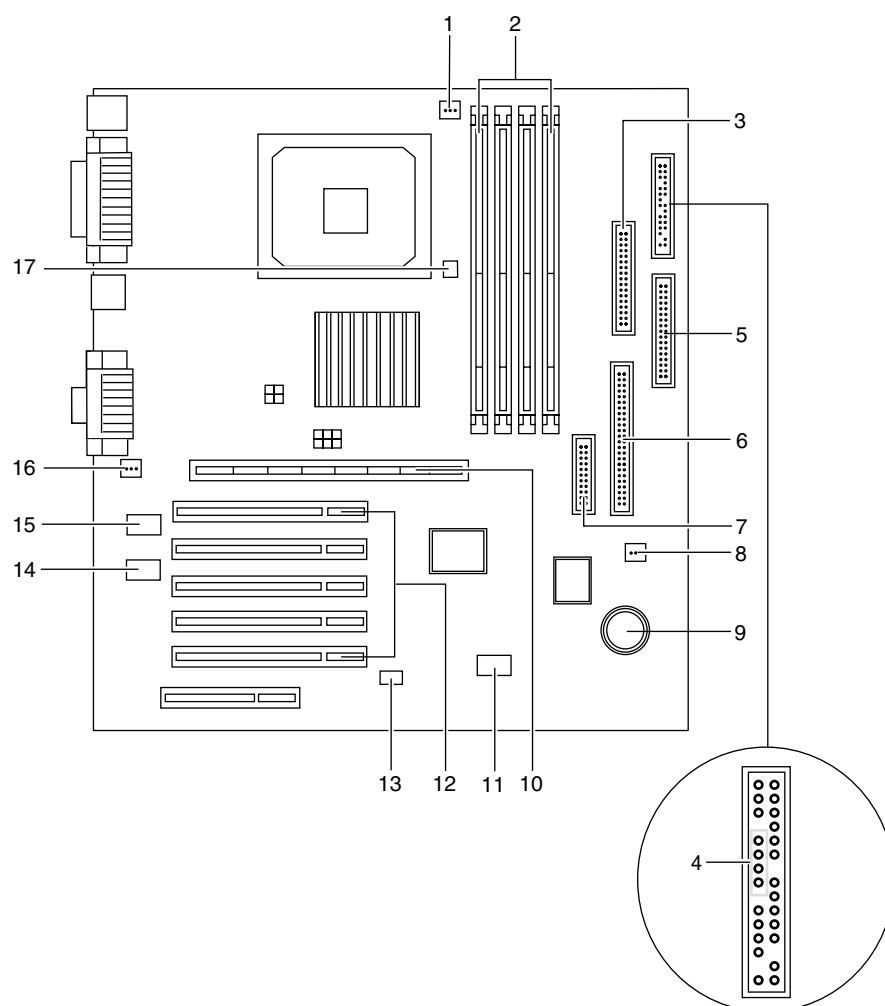
付録

Contents

1 システムボード	116
2 リソース一覧	118
3 ドライブの設定	119
4 コネクタ仕様	121
5 お手入れ	128
6 保守修理サービスのご案内	131
7 保証について	132
8 その他の注意事項	133

1 システムボード

■ システムボード



- 1 ファンコネクタ（プロセッサ用）
- 2 RIMM スロット
図中左から 1 ～ 4 と並んでいます。
- 3 セカンダリ IDE コネクタ
セカンダリ IDE 用のケーブルを接続します。
- 4 SCSI LED ピン
SCSI カードから LED ケーブルを接続します。
- 5 フロッピーコネクタ
フロッピーディスクドライブのケーブルを接続します。
- 6 プライマリ IDE コネクタ
プライマリ IDE 用のケーブルを接続します。
- 7 シリアルポート 2 コネクタ
増設シリアルインタフェースまたは増設スマートカードリーダー/ライターを接続します。
- 8 ファンコネクタ（AUX 用）
- 9 内蔵バッテリー
本ワークステーションのセットアップ設定値を保存するためのバッテリーです。
標準の使用状態で約 5 年間お使いになれます。
- 10 AGP Pro スロット
グラフィックスカードを取り付けます。
- 11 コンフィグレーションスイッチ
パスワードを消去するときにコンフィグレーションセッティングを行います。
- 12 PCI スロット
PCI カードを取り付けます。図中上から、PCI スロット 1 ～ 5 と並んでいます。
PCI スロット 3 には、LAN カードを標準搭載しています。
- 13 Wake On LAN 用コネクタ
Wake On LAN ケーブルを接続します。
- 14 外部入力コネクタ
- 15 AUDIO 入力コネクタ
CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW ドライブからの AUDIO ケーブルを接続します。
- 16 ファンコネクタ（SYS 用）
- 17 電源インジケータ LED
電源が入っているときに点灯します。

**ポイント**

本体背面に拡張スロット番号が刻印されていますが、本書に記載されている AGP Pro スロット / PCI スロットの番号と異なりますのでご注意ください。

2 リソース一覧

本ワークステーションの出荷時の割り込みレベル（IRQ）、DMA チャンネル、I/O ポートアドレスの使用状況は次の通りです。

IRQ	使用状況
0	システムタイマ
1	キーボード
2	IRQ8 ~ 15 をカスケード接続
3	シリアルポート 2
4	シリアルポート 1
5	
6	フロッピーディスクコントローラ
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	
10	
11	
12	マウス
13	数値演算コプロセッサ
14	プライマリ IDE
15	セカンダリ IDE

：PCI デバイス（ビデオカード、LAN、SCSI、サウンド等）

割り込みレベルは自動割り当てのため、カスタムメイドオプションの選択によって割り当てが異なります。

DMA	使用状況
0	空き
1	空き
2	フロッピーディスクコントローラ
3	空き
4	DMA0 ~ 3 をカスケード接続
5	空き
6	空き
7	空き

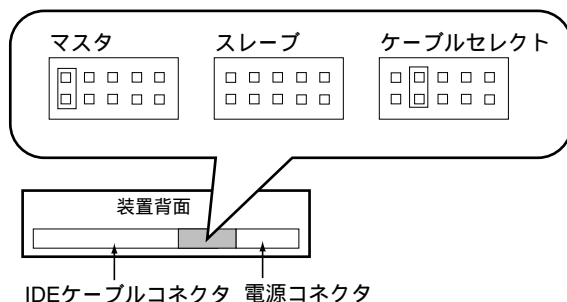
I/O ポートアドレス	使用状況
02F8h ~ 02FFh	シリアルポート 2
03F0h ~ 03F5h, 03F7h	フロッピーディスクコントローラ
0378h ~ 037Bh	パラレルポート
03F8h ~ 03FFh	シリアルポート 1

3 ドライブの設定

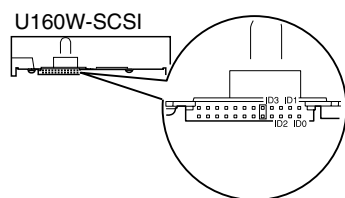
■ ハードディスクドライブの設定

ショートは、ショートピンを差し込みます。
オープンは、ショートピンを差し込みません。

• IDE ハードディスクの設定



• U160W-SCSI ハードディスクの設定



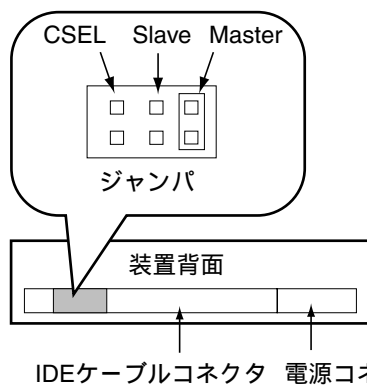
ドライブ番号	設定ピン			
	JP4 (ID3)	JP3 (ID2)	JP2 (ID1)	JP1 (ID0)
#0	オープン	オープン	オープン	オープン
#1	オープン	オープン	オープン	ショート
#2	オープン	オープン	ショート	オープン
#3	オープン	オープン	ショート	ショート
#4	オープン	ショート	オープン	オープン
#5	オープン	ショート	オープン	ショート
#6	オープン	ショート	ショート	オープン
#7	オープン	ショート	ショート	ショート
#8	ショート	オープン	オープン	オープン
#9	ショート	オープン	オープン	ショート
#10	ショート	オープン	ショート	オープン
#11	ショート	オープン	ショート	ショート
#12	ショート	ショート	オープン	オープン
#13	ショート	ショート	オープン	ショート
#14	ショート	ショート	ショート	オープン
#15	ショート	ショート	ショート	ショート

- SCSI-ID は、#1 から #15（#7 を除く）の範囲で設定してください。
- ドライブ番号は、他の装置と重ならないように設定してください。
- SCSI-ID 設定ピン以外のピンには触らないでください。

■ CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW ドライブの設定

ショートは、ショートピンを差し込みます。

オープンは、ショートピンを差し込みません。



Master (マスタ)	ショート (出荷時)
Slave (スレーブ)	オープン
CSEL (ケーブルセレクト)	オープン

■ その他のドライブの設定

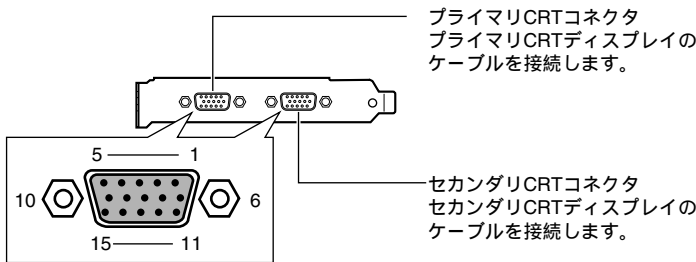
その他のドライブの設定は、オプションに添付されているマニュアルを参照してください。

4 コネクタ仕様

各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

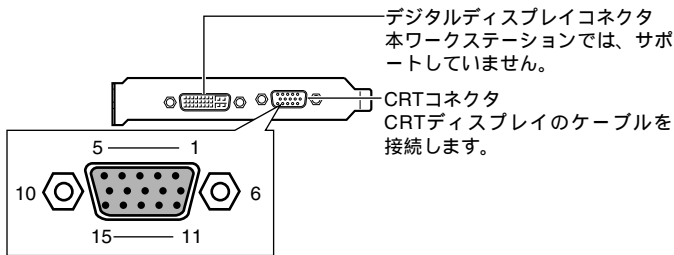
■ ディスプレイコネクタ

- Matrox Millennium G450



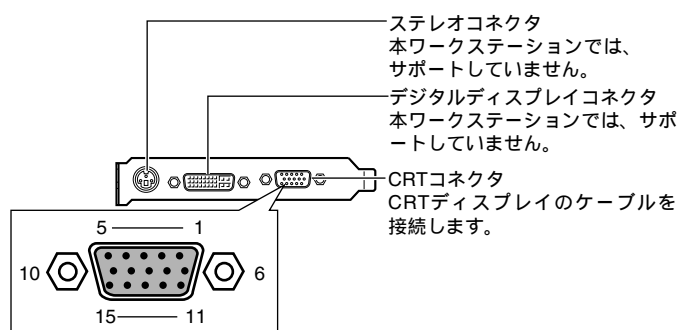
ピン No.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5 ~ 8	GND	-	グランド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グランド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

• CELSIUS Quadro2 MXR



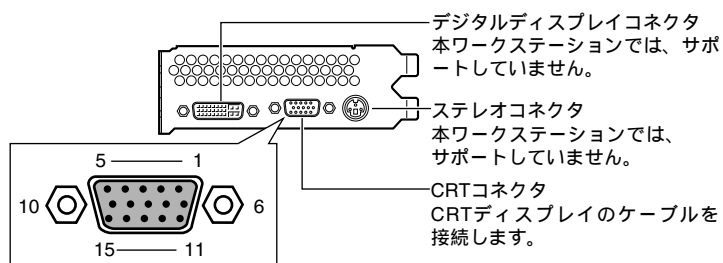
ピン No.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5 ~ 8	GND	-	グラウンド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グラウンド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

- CELSIUS GL2



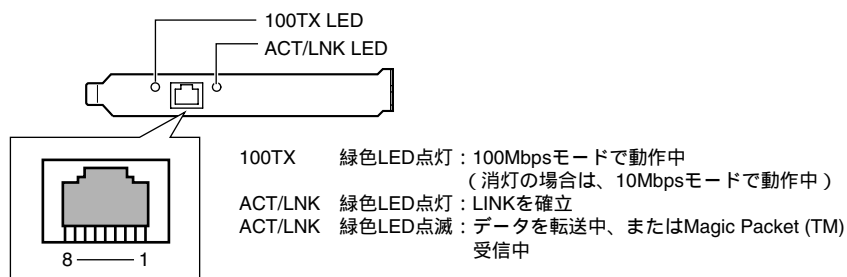
ピン No.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5 ~ 8	GND	-	グラウンド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グラウンド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

- CELSIUS Wildcat II 5110



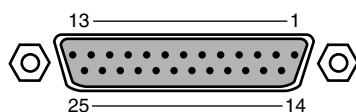
ピン No.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	ID2	入出力	データ
5 ~ 8	GND	-	グラウンド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グラウンド
11	ID0	入出力	データ
12	ID1	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSNC	出力	垂直同期信号
15	ID3	入出力	データ

■ LAN コネクタ



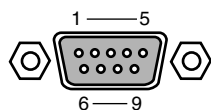
ピン No.	信号名	方向	内容
1	TD+	出力	送信データ +
2	TD-	出力	送信データ -
3	RD+	入力	受信データ +
4	NC	-	未接続
5	NC	-	未接続
6	RD-	入力	受信データ -
7	NC	-	未接続
8	NC	-	未接続

■ パラレルコネクタ



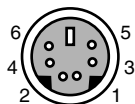
ピン No.	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA0	入出力	データ 0
3	DATA1	入出力	データ 1
4	DATA2	入出力	データ 2
5	DATA3	入出力	データ 3
6	DATA4	入出力	データ 4
7	DATA5	入出力	データ 5
8	DATA6	入出力	データ 6
9	DATA7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18 ~ 25	GND	-	グラウンド

■ シリアルコネクタ



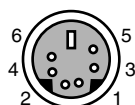
ピン No.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

■ マウスコネクタ



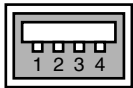
ピン No.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グランド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

■ キーボードコネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グランド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

■ USB コネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	- データ信号
3	+DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

5 お手入れ

本ワークステーションのお手入れのしかたは、次のとおりです。



- お手入れをする場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。

ワークステーション本体のお手入れ

柔らかい布でから拭きします。から拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぼった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、ワークステーション本体に水が入らないようにご注意ください。

通風孔にほこりがたまらないように、掃除機でほこりを吸引するなど、定期的に清掃してください。

キーボードのお手入れ

柔らかい布でから拭きします。

CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW のお手入れ

柔らかい布で、中央から外側に向かってから拭きします。汚れがひどいときは、柔らかい布を薄い石けん水に浸し、固くしぼって汚れを拭き取り、その後柔らかい布でから拭きしてください。

マウスのお手入れ

表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

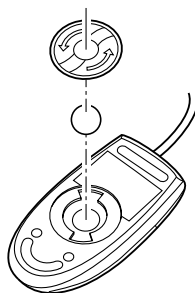
1 マウスの裏ボタンを取り外します。

マウス底面にある裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



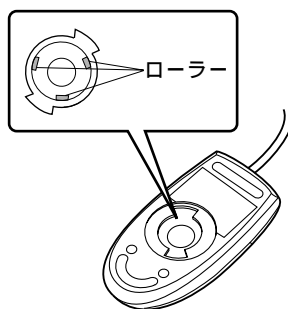
2 ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、ボールを水洗いします。



3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、ローラー、および裏ボタンを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。



フロッピーディスクドライブおよびスーパーディスクドライブのクリーニング

フロッピーディスクドライブおよびスーパーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売（サプライ品）のクリーニングフロッピーを使い、3 カ月に 1 回程度の割合でクリーニングしてください。

品名	商品番号
クリーニングフロッピーマイクロ	0212116
スーパーディスククリーニングディスク	0215120

■ フロッピーディスクドライブのクリーニング方法

- 1 フロッピーディスクドライブにクリーニングフロッピーをセットします。
- 2 Windows NT / Windows 2000 のコマンドプロンプトから dir などのディスクにアクセスするコマンドを実行します。
例：次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
dir a:
```

■ スーパーディスクドライブのクリーニング方法

- 1 クリーニングディスク上部の、ヘッド部に接触する白い生地にクリーニング液を 2 ～ 3 滴落とします。
- 2 クリーニングディスクをスーパーディスクドライブにセットします。
自動的にクリーニングが始まり、約 20 秒ほどで自動的に終了します。
- 3 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングディスクを取り出します。

6 保守修理サービスのご案内

弊社では、保守修理サービスとして、次の「契約サービス」「スポット保守サービス」を用意しております。

お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びのうえ、担当営業員または担当保守員にお申し込みください。

契約サービス

お客様と契約に基づき、装置管理を行います。

保守サービス料金は月額定期保守料をお客様に負担していただきます。

料金は定額ですので、お客様の予算管理も容易です。

■ 定期保守サービス

トラブルを未然に防止するとともに、装置の機能維持を行うため、定期的に予防点検、整備調整作業を行います。万一の障害発生時には保守員がお客様に伺い、保守修理作業を実施いたします。

業務にご利用の場合などで、装置の使用頻度の高いお客様に最適なサービスです。

■ 定額訪問修理サービス

万一のトラブルの際に、保守員がお客様に伺い、修理作業を実施いたします。

■ 定額点検サービス

トラブルを未然に防止するための定期点検のみを実施する契約サービスです。

点検時の部品の交換、障害発生時の保守作業については別途有償とさせていただきます。

スポット保守サービス

必要に応じてその都度利用していただく保守サービスです。

保守サービス料金は、サービス実施の都度、お客様に負担していただきます。

■ スポット訪問修理サービス

お客様のご依頼により、保守員が修理にお伺いします。

修理料金はその都度ご精算いただきます。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、訪問に必要な費用は別途有償となります。

アフターサービスなどについて、ご質問などがございましたら、担当営業員または担当保守員へお問い合わせください。

7 保証について

本ワークステーションの保証について説明します。

- 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- 修理を依頼されるときには、必ず保証書をご用意ください。
- 本ワークステーションの保守部品の供給期間は、製造終了後 6 年間とさせていただきます。
- 部品の寿命による故障が発生する前に、予防交換を行う必要があります。交換周期は部品によって異なりますが、ハードディスクでは 20,000 時間の通電が目安となります。

8 その他の注意事項

■ SCSI カード追加機構を使用する場合の注意事項

- SCSI カードを使用する場合は内蔵 SCSI 装置と外付 SCSI 装置は同時に接続できませんのでご注意ください。
内蔵 SCSI 装置、外付 SCSI 装置の双方を使用される場合は、異なる SCSI カードに接続してください。
- 外付 SCSI 装置を接続する場合は 2 台までしか接続できません。外付 SCSI 装置を 3 台以上接続する場合は複数の SCSI カードに分けて接続してください。
なお、外付 SCSI 装置を接続する場合に使用するケーブルは接続装置によって異なります。以下に示すものを使用してください。

[68pin(Wide)SCSI 装置を接続する場合]

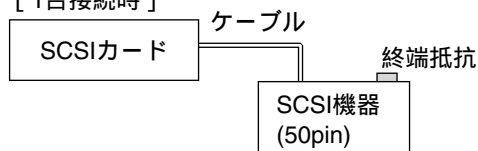
68pin(Wide)SCSI 装置を接続される場合、SCSI 装置に添付されております SCSI ケーブル及び終端抵抗を使用して接続してください。
この場合、50pin (Narrow) SCSI 装置は接続できません。



[50pin(Narrow)SCSI 装置を接続する場合]

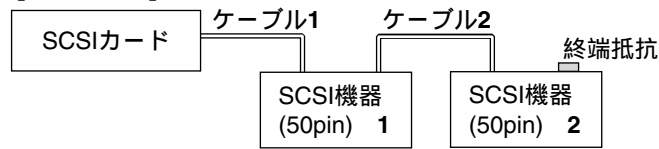
50pin(Narrow)SCSI はコネクタの形状として、フルピッチとハーフピッチの 2 種類があります。接続される場合、以下に示すものを選択してください。

[1台接続時]



ケーブル	SCSI 装置	終端抵抗
GP5-832	フル	FMV-692
GP5-833	ハーフ	FMV-695

[2台接続時]



ケーブル 1	SCSI 機器 1	ケーブル 2	SCSI 機器 2	終端抵抗
GP5-832	フル	FMB-CBL831	フル	FMV-692
		FMS-834	ハーフ	FMV-695
GP5-833	ハーフ	FMS-834	フル	FMV-692
		FMV-CBL32	ハーフ	FMV-695

- 内蔵 SCSI 装置を接続する場合は SCSI カードに添付されております SCSI ケーブルをご使用ください。
- SCSI カードに添付されておりますマニュアル（ユーザズガイド／インストールガイド）は本カードの全体に対し記している汎用のマニュアルです。CELSIUS ワークステーションとしてのサポート範囲を越えた記述がありますので、参考としてお読みください。
- 本カードは「Adaptec SCSI Select Utility」にて SCSI 設定の変更が可能です。「Adaptec SCSI Select Utility」の詳細につきましては本カードに添付されております「ユーザズ・ガイド」を参照してください。

■ 高性能無停電電源装置（Smart-UPS）のバッテリー

電源の投入 / 切断時間にかかわらず約 2 年経過すると交換時期となりますが、周囲温度により、バッテリー寿命が短縮されることがあります。詳細につきましては、高性能無停電電源装置の取扱説明書をご覧ください。

索引

A

Advanced 83

B

BIOS Setup 74

C

CD-R/RW ドライブの設定 120
CD-ROM ドライブ 43
CD-ROM ドライブの設定 120

D

DMA チャンネル 118
DVD-ROM ドライブ 43
DVD-ROM ドライブの設定 120

E

Exit 102

I

I/O ポートアドレス 118
IDE ハードディスクの設定 119
IRQ 118

L

LAN ケーブルの接続 31
LAN コネクタ 125

M

Main 77

P

Power 99

S

SCSI カード追加機構 133
SCSI ハードディスクの設定 119

U

USB コネクタ 127

え

エラーメッセージ 107

お

お手入れ 128

か

拡張カードの取り付け	61
拡張カードの取り外し	62

き

キーの役割	75
キーボードコネクタ	126
キーボードの接続	31

け

契約サービス	131
--------------	-----

こ

高性能無停電電源装置	134
------------------	-----

さ

サイドカバーの取り付け	55
サイドカバーの取り外し	54

し

システムボード	116
受信障害防止	29
シリアルコネクタ	126

す

スーパーディスク	41
スポット保守サービス	131

せ

接続	30
設置	28

て

ディスプレイケーブルの接続	31
ディスプレイコネクタ	121
ディスプレイの電源ケーブルの接続	32
電源ケーブルの接続	33
電源スイッチ	35
電源の入れかた	34
電源の切りかた	37

な

内蔵ハードディスクベイ -2	70
内蔵ハードディスクベイの取り付け	71
内蔵ハードディスクベイの取り外し	70

は

ハードディスク	47
ハードディスクドライブのファイルベイへの 取り付け	72
ハードディスクドライブの内蔵ハードディス クベイへの取り付けと取り外し	69
パスワード	104
パラレルコネクタ	125

ふ

ファイルベイからのドライブの取り外し ..	66
ファイルベイの施錠	48
ファイルベイへのドライブの取り付け	65
フロッピーディスク	41
フロッピーディスクドライブベイの交換 ..	67

ほ

保守修理サービス	131
保証	132

ま

マウスコネクタ	126
マウスの接続	31

め

メモリの取り付け	58
メモリの取り外し	58

り

リソース	118
------------	-----

わ

ワークステーション本体前面の各部の名称	22
ワークステーション本体内部の各部の名称	26
ワークステーション本体の電源ケーブルの接続	33
ワークステーション本体背面の各部の名称	24
割り込みレベル	118

CELSIUS 460
ハードウェアガイド

P3F1-1370-01

発行日 2001 年 10 月
発行責任 富士通株式会社
Printed in Japan

-
- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
 - 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
 - 無断転載を禁じます。
 - 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。